

愛媛県総合科学博物館 魅力向上戦略

令和8年3月

目 次

第1章 戦略の基本的考え方

1	戦略の趣旨	1
2	戦略の役割	1
3	戦略の基本プロセス	1
4	成果目標の方向性	2
5	戦略の構成	2

第2章 総合科学博物館の現状と分析

1	科博の基本情報	3
2	入館者の推移と構成	6
	(1) 入館者数の推移	
	(2) 来館動向	
	(3) 県の人口推移予想と科博利用	
3	施設の現状と課題	9
	(1) 県民と科博利用者の声	
	(2) 施設の現状	
	(3) 施設の環境分析	
	(4) 科博を取り巻く環境の変化と課題	
	(5) 科博への要望・分析と課題	

第3章 総合科学博物館の理念と方針

1	科博の基本理念 スローガンとミッション	17
	(1) スローガン	
	(2) ミッション	
2	科博が将来実現すべき姿（ビジョン）	18
3	科博の目指す活動方針（アクションプラン）	19
4	科博の理念と戦略の構造図	21
5	科博ビジョン実現のための施設強化策	22

第4章 総合科学博物館魅力向上戦略

1	魅力向上戦略の検討体制と基本的な考え	23
2	魅力向上戦略の中心となる大型事業	24
3	施設別の事業詳細	25
	(1) プラネタリウム・天文事業の充実	
	(2) 展示室の更新	
	(3) 収蔵庫拡充と新しい資料保存活動	
	(4) 施設整備と利便性向上・情報発信	
4	戦略のプロセス・優先度	31
5	戦略の進展に応じたソフト展開	33
6	戦略の進展に応じた数値目標	34
	(1) 将来の入館者数の推定と目標	
	(2) KPI の検討について	
7	科博の理念と魅力向上戦略のイメージ	36

付録	愛媛県総合科学博物館 魅力向上戦略検討会 構成員名簿・開催要綱・会議経過	37
----	---	----

第1章 戦略の基本的考え方

1 戦略の趣旨

愛媛県総合科学博物館は、平成6年に設置され、開館以来、県民に科学に関する深い理解と探求の機会を提供してきた。科学的な思考力と創造性の涵養を図るとともに、科学技術の進歩と本県産業の発展に寄与し、これまでに600万人を超える方々に利用されている。

しかしながら、開館から30年が経過し、博物館を取り巻く環境は大きく変化している。自然史への理解の深まりや科学技術の進歩への対応、DXの進展、また、これまで以上に地域の多様な利用者との連携や地域活性化への貢献といった時代背景に対応した新たな役割の創出と機能強化も求められている。加えて、施設の老朽化や常設展示コンテンツの陳腐化が進行するとともに、バス路線の廃止により公共交通でのアクセス利便性が低下してきており、将来的には県民の学びの機会や来館者減少による地域との連携・交流機会の喪失を招くなど博物館機能の維持が困難になる重大な転換期を迎えている。

こうした状況を踏まえ、施設整備による機能強化等により施設の魅力や利便性を高めることで、これまでの来館者層である小学生とその家族に限らず、大人、学生、高齢者、乳幼児の子育て世代など幅広い層がより一層来館し、県民が科学への理解を深めるとともに、自然環境保全や産業発展に寄与し、広く深く故郷を愛し、盛り上げる機運を高める。そして西条IC近くという立地条件を生かし、県内外から多くの人々が交流できる場を創出し、本県の人口減少抑制にも貢献する施設の新しい姿を提案するものである。



2 戦略の役割

本戦略は、愛媛県総合科学博物館の現状を再整理し、第5期中期運営計画に基づく運営を進める中で顕在化した課題に対応するとともに、中長期的な視点で当館の果たすべき役割と方向性を定め、持続的な発展に向け、施設整備を中心とした今後の取組の指針となるものである。

なお、本戦略は、現時点では将来的な施設整備の実施可否やスケジュール等が未確定であり、以下に掲げる目標や内容等は暫定的なものである。このため3年ごとに戦略の進捗状況の検証・評価を実施し、その時点の状況や新たな課題を踏まえ、柔軟に見直すこととする。

3 戦略の基本プロセス

施設整備を中心とする大型事業ごとに優先度を設定して、社会変化や財政状況等も勘案しながら、今後10年程度を目安に段階的に進めるものとする。

優先度	事業項目
フェーズ1 緊急の危機回避と機能更新	プラネタリウム・天文事業の充実
フェーズ2 早期の集客率向上	展示室の更新1（大型企画展示室の新設・産業資料の移設）
フェーズ3 中核機能の本格的再構築	展示室の更新2（常設展示の大規模更新） 収蔵庫拡充と新しい資料保存活動1（常設展示内収蔵） 施設整備と機能向上・情報発信

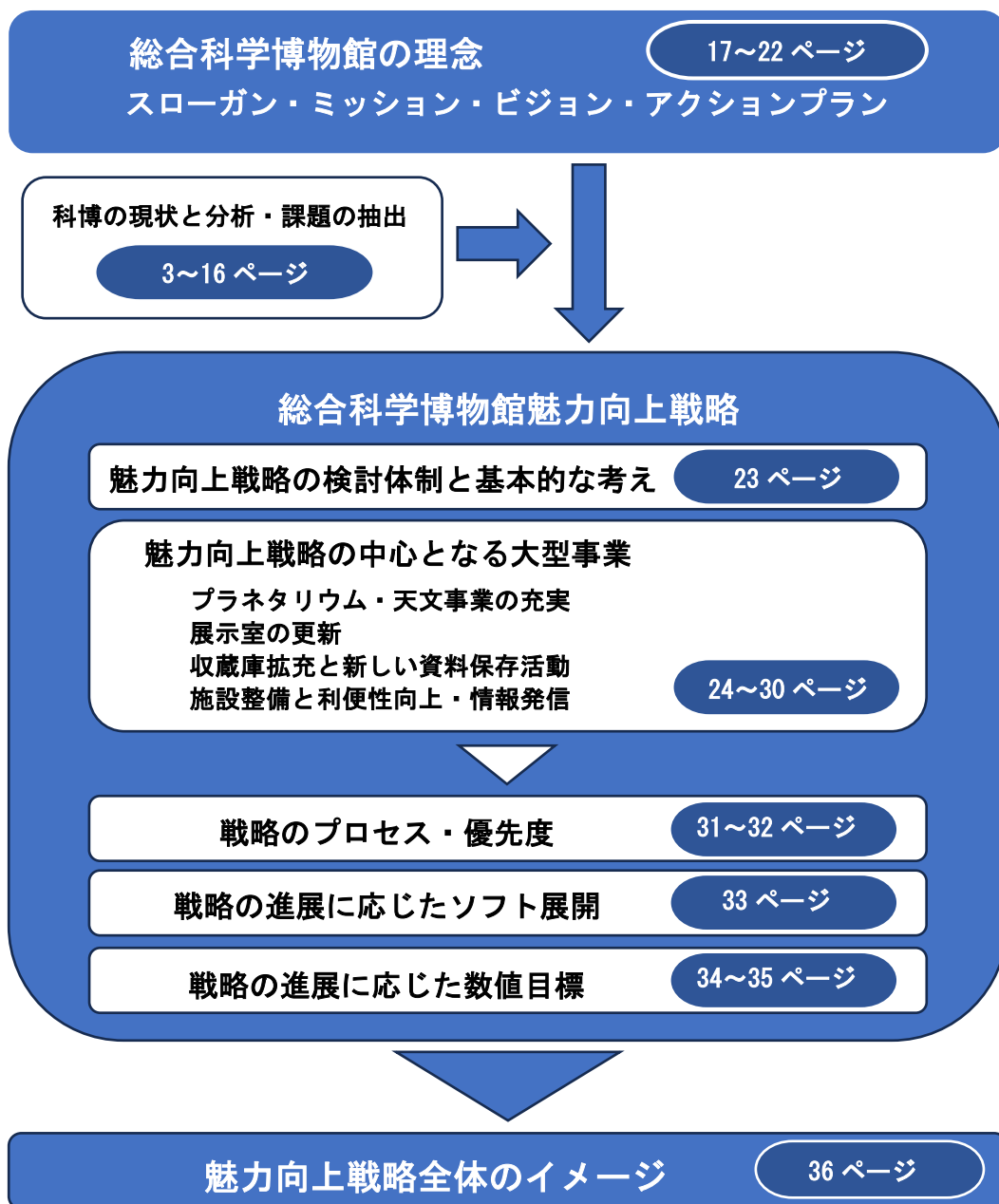
フェーズ4 地域連携の深化と広域展開	収蔵庫拡充と新しい資料保存活動2（地域へのサテライト収蔵）
--------------------	-------------------------------

4 戦略ターゲットと成果目標の方向性

県民が当館の文化資産の価値を知り、より広範な利用を促進するとともに、県の人口減少を踏まえつつも県内外から多様な利用者が来館し、関係人口・交流人口の増加により今後30年にわたり現在の総入館者数の水準を維持することを成果目標の方向性とする。

目標総入館者数	年平均19万人維持（2055年頃まで）
---------	---------------------

5 戦略の構成




第2章 総合科学博物館の現状と分析

1 科博の基本情報

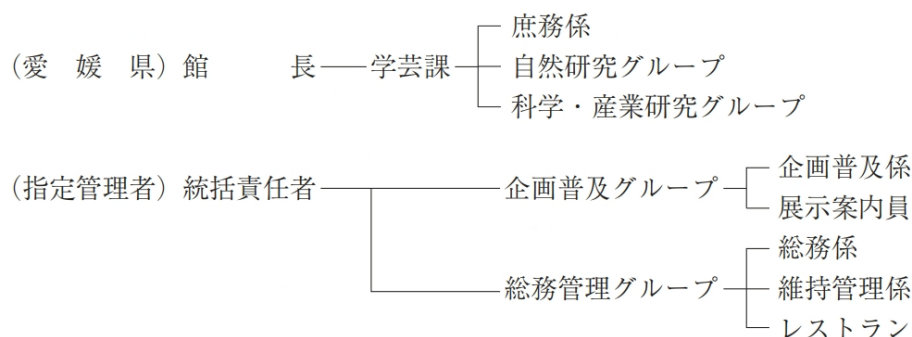
施設名	愛媛県総合科学博物館	設置年月	1994（平成6）年10月1日
住所	愛媛県新居浜市大生院 2133-2	所管課	観光スポーツ文化部まなび推進課

○概要

設置目的	<p>県民に自然科学に関する正しい理解を深めていただくための学習機会を提供し、創造的風土の醸成を図るとともに、科学技術の進歩と本県産業の発展に寄与することを目的。</p>	
運営	<p>社会教育法、文化芸術基本法に基づき定められた博物館法による登録博物館。平成21年から、県の「公の施設のありかたの見直し」に伴い、一部指定管理者制度を導入している。学芸部門を県が担い、施設の管理・運営部門を指定管理者（伊予鉄総合企画株式会社）が担っている。</p>	

○組織構成

名誉館長（山中俊治 ※令和4年4月1日就任）



○指定管理者制度

指定管理者の業務

博物館施設の維持管理業務、来館者サービス業務、生涯学習事業、施設等の利用許可、利用促進業務、プラネタリウムの運営及び学芸業務の一部（展示事業及び普及啓発事業に係る経費の支出）

県直営業務




学芸業務（博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他関連する業務）

*学芸業務の一部は指定管理者が経費を支出

名誉館長、博物館協議会に関する業務

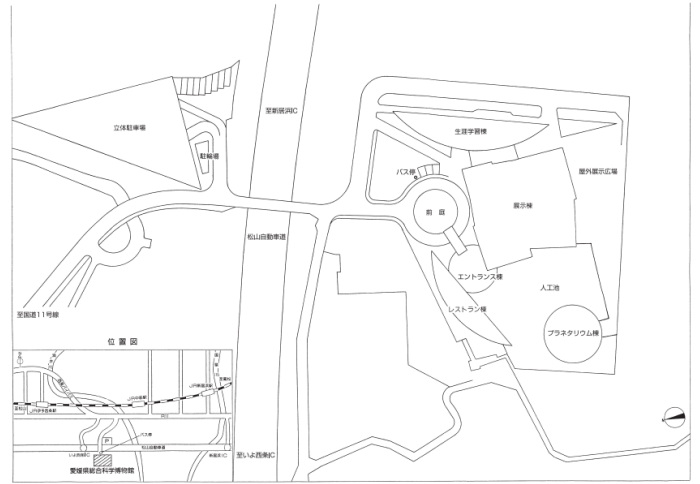
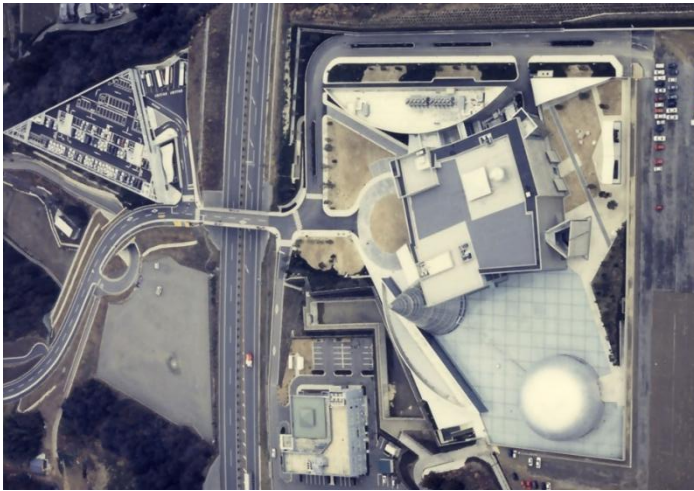
維持管理業務の一部（火災共済への加入等）

○施設の機能

<p>博物館機能</p>	<p>資料収集・整理・保存</p> <p>自然史、科学技術、産業に関する収蔵資料は約 31 万点、そのうち 14 万点はインターネット上で公開している。</p> <p>調査研究</p> <p>研究報告を刊行し、展示、教育活動を通じて広く県民に還元。</p> <p>展示活動</p> <p>3階4階に常設展示を設置、1階館内には企画展示室、屋外には屋外展示場を設置している。企画展示室で特別展、企画展を開催、また、パネル巡回展やロビー展等も開催している。</p> <p>教育普及活動</p> <p>多くの県民に活動事業を周知するとともに、各種活動成果をより多くの人に還元するため、多様な活動を行っている。</p> <p>プラネタリウムの運営</p> <p>通常投影に加えオリジナル番組の制作と公開、講演会やイベントなどの施設利用にも力を入れている。</p>	  
<p>生涯学習機能</p>	<p>学習機会の提供、学習情報の提供、施設の開放</p>	

○主な施設

<p>敷地面積</p>	<p>25,800 m² (うち立体駐車場 4,300 m²)</p>	
<p>建築本体</p>	<p>総建築面積 7,011 m² 総延床面積 16,596.51 m²</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスホール棟 建築面積 665 m² 延床面積 940.29 m² <p>エントランスホール、スロープ、受付、プラネタリウム入口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示棟 建築面積 3,460 m² 延床面積 10,658.44 m² <p>1階 企画展示室、多目的ホール、収蔵庫、燻蒸庫、標本工作室、機械室</p> <p>3階 科学技術館、産業館</p> <p>4階 自然館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習棟 建築面積 1,331 m² 延床面積 3,375.02 m² <p>1階 図書室、収蔵庫</p> <p>2階 科学工作室、科学実験室、機材準備室、研修室、収蔵庫、託児室</p> <p>3階 事務室、館長室、名誉館長室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レストラン棟 建築面積 703 m² 延床面積 719.65 m² <p>1階 レストラン、売店、授乳室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラネタリウム棟 建築面積 852 m² 延床面積 903.11 m² <p>1階 プラネタリウム、番組制作室</p>	
<p>立体駐車場</p>	<p>延床面積 6,258.88 m²</p>	



愛媛県総合科学博物館敷地と建物

○当館の位置



- ・愛媛県の東予地域、新居浜市の西端の大生院地区に設置。
- ・松山自動車道いよ西条IC から国道11号線経由で約5分の立地。
- ・JRの特急停車駅からタクシーで25分
- ・JR中萩駅から徒歩約40分。
- ・敷地内まで乗り入れる路線バスは令和6年10月に廃止。
- ・松山市から自動車約1時間（高速道路利用）。



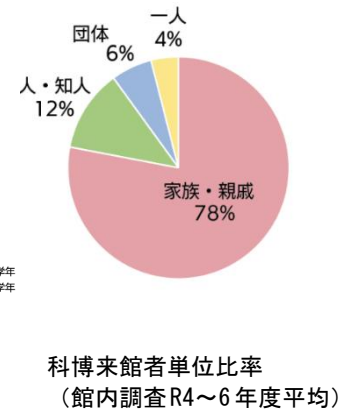
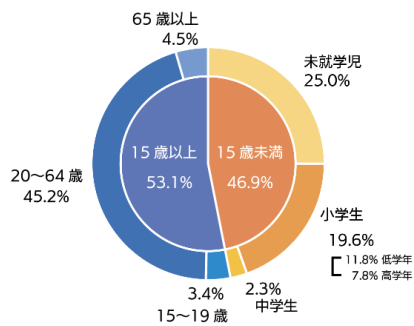
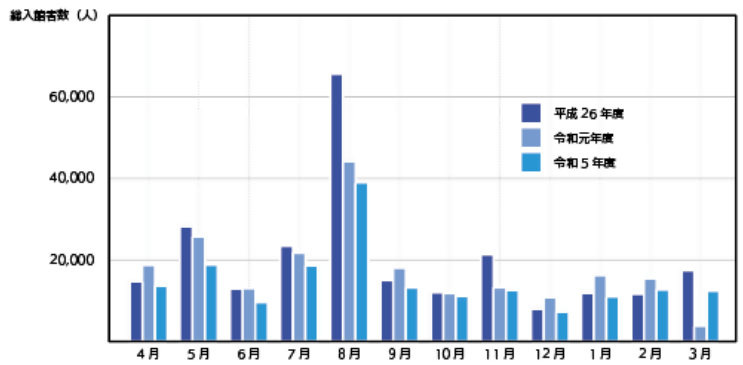
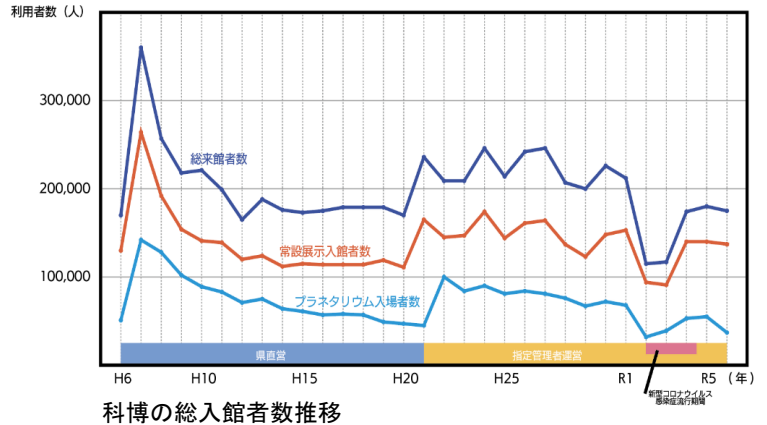
2 入館者数の推移と構成

(1) 入館者数の推移

総入館者数は開館直後をピークに緩やかに減少傾向をたどり、開館6年目の平成11年度には20万人を割り、その状態が続いていたが、平成21年度の指定管理者制度導入により入館者が持ち直し、以降は年間約20万人で推移してきた。民間の効率的かつきめ細かい事業展開が県民に評価されるとともに、同時期のプラネタリウムの投影機更新、常設展示4階のリニューアル、特に恐竜ロボットのリニューアルも入館者増加に大きく寄与した。令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数は大きく減少したものの、その後は回復し、年間約17万人程度で推移している。

夏とゴールデンウィーク時期に入館者が多いほか、小学生とその保護者の組合せが最も多く来館する層であるため、児童生徒の休業時期に大規模展示やイベントを開催している。雨天の週末には入館者数が増加し、団体の雨天利用ニーズもあることから全天候型の施設の強みを生かした事業も重要になっている。

今後の少子化予測を踏まえると、小学生のいる家族のリピー率向上や小学生の遠足シーズンにおける団体利用促進はもとより、中高生、乳幼児の子育て世代、大人や高齢者などの多様なニーズに対応できるよう、施設整備による機能強化が必要となる。これが実現すれば、より幅広い層の来館で季節による入館者の偏りの軽減につながり、入館者数の減少を食い止めるとともに、当館の文化資産が県民の多様な主体に広く活用されることが期待される。



天候	晴れ	雨	比率
平均展示観覧者数	874人	1,441人	165%

週末の平均来館者数の天候分類 (館内調査 R4~6 年度平均)

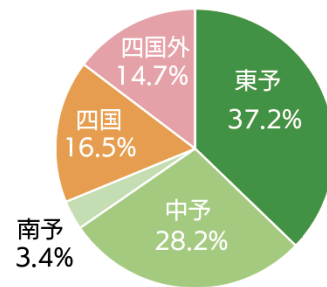
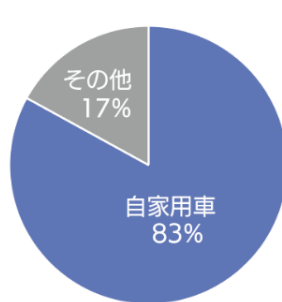
分類	来館団体総数	非雨天限定予約団体数	雨天限定予約団体数
団体数	256 団体	2 団体	14 団体

予約時に天候を限定した団体数の比較 (R6 年度実績)

(2) 来館動向

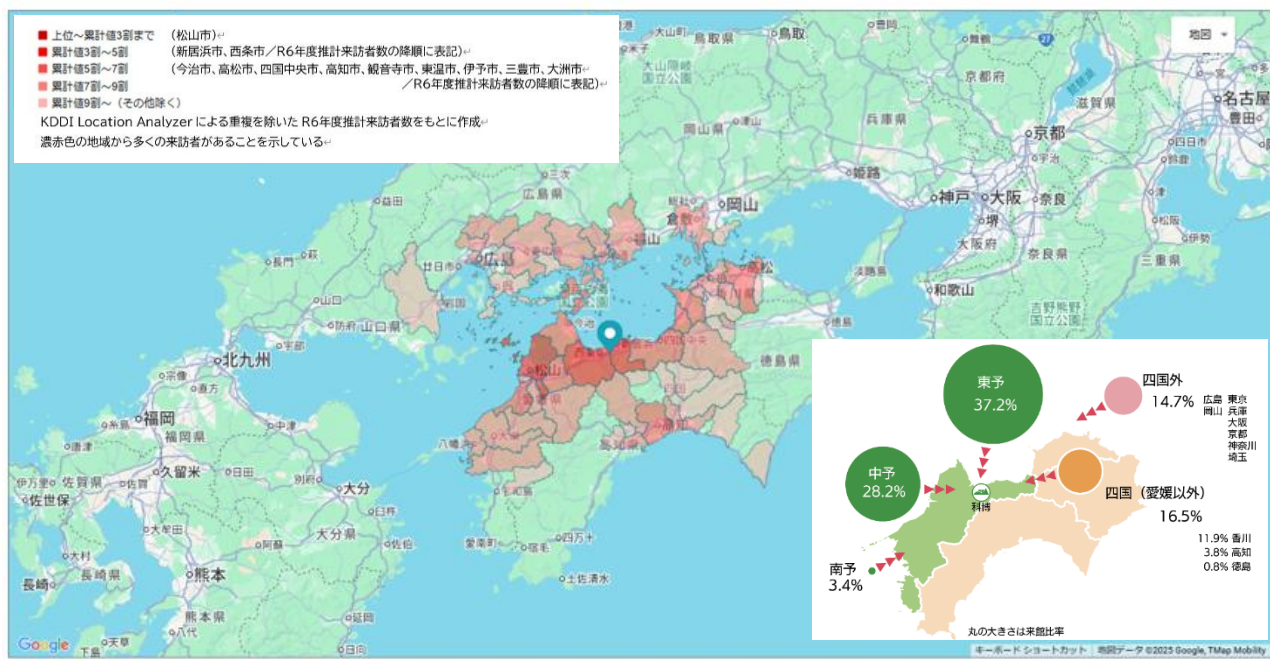
当館は自家用車以外で来館することが難しい環境であり、来館動向もこれを大きく反映している。松山自動車道いよ西条ICの近隣に立地しているため、県外からの来館も多く、約3割に上る。

- 6% 観光バス
- 1% タクシー
- 1% レンタカー
- 1% オートバイ
- 1% JR
- 1% 自転車
- 1% 徒歩
- 5% その他方法



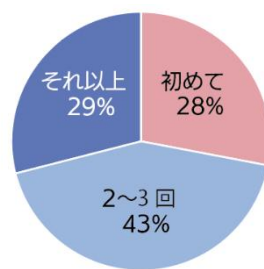
科博来館方法比率
(館内調査 R4~6 年度平均)

科博来館地域比率
(館内調査 R4~6 年度平均)



上図は当館への来館地域を示し、赤が濃いほど来館者が多い。瀬戸内一円から広く来館がある一方、県内では南予からの来館が少なく、山陰や九州からは、関西や関東より来館が少ない。当館は中四国最大の理工系総合博物館であり、高速道路ICに近い立地を生かし、中四国一円、九州、近畿からも誘客できる施設の価値を打ち出していく必要がある。

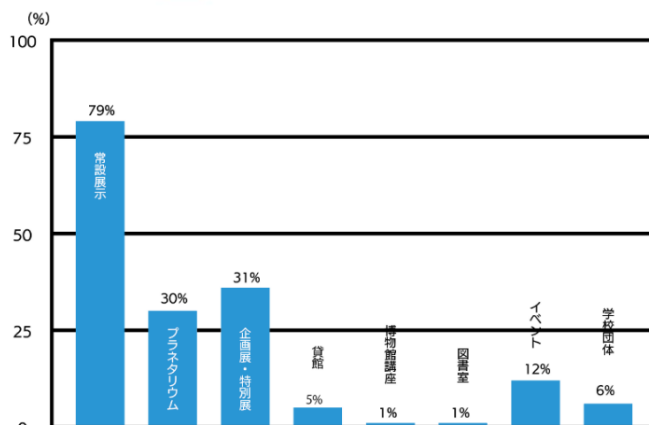
科博来館者居住地域 (令和6年度調査)



科博リピーター比率
(館内調査 R4~6 年度平均)

当館のリピーター率は7割を超えるにも関わらず、常設展示の入館率が8割に及んでおり、常設展示への関心の高さとその発信力の強さを表している。

最新技術展示や科学の面白さの体験といった来館者の要望に応えつつ、県民にはシビックプライドの醸成を促すとともに、県外来館者には愛媛の魅力伝える、より発信力の強い常設展示の更新が期待される。



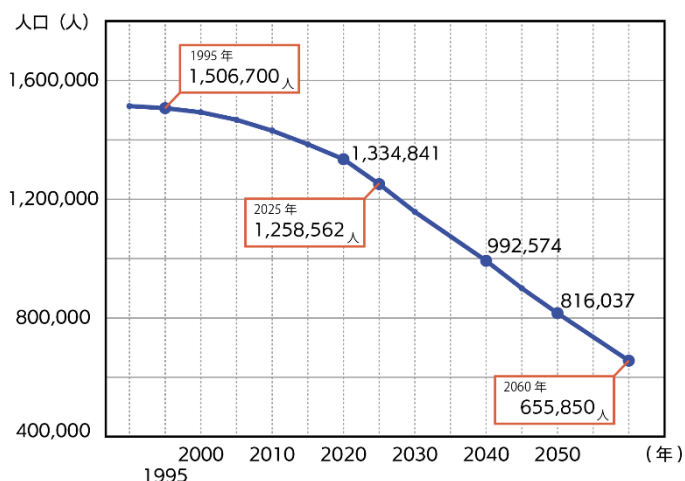
科博来館者の施設利用 (館内調査 R4~6 年度平均)

(3) 県の人口推移予想と科博利用

愛媛県の人口は減少傾向にあり、当館の開館以降 30 年で約 25 万人が減少し、今後 30 年でさらに約 60 万人の減少が推計されている。人口に対する 65 歳以上の高齢者比率の増加と 15 歳未満の年少人口比率の減少も見込まれており、このまま対策がなされなければ、現在約 14 万人の年少人口は、30 年後に約 4 万人まで減少すると推計されている。現在の当館の利用者傾向が今後も変わらなければ、入館者数の大幅な減少が懸念される。

県内小中学校からの団体来館者は、開館時から現在までの生徒数の減少率よりも速いペースで減少している。団体来館者数に限れば、県内小中学校の利用数の減少に代わり、幼稚園・保育園の団体利用が伸びており、全体の団体利用者の減少は生徒数の減少ペースと同程度となっている。今後の生徒数の減少は、学校団体入館者だけでなく、一般の入館者減に影響すると予測される。人口減少、特に年少人口の減少に対応するため、小学生のいる家族のリピート率を向上させるとともに、遠足シーズンにおける団体利用を促進しつつ、成人層の来館も徐々に増加させることが、総入館者の減少を防ぐために重要な考え方となる。

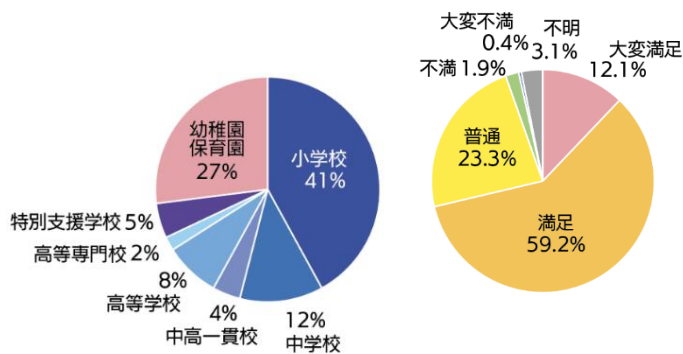
当館の展示満足度は非常に高く、展示の評価に来館する世代や地域に偏りは見られない。そのため、未だ来館経験がない層を取り込み、次代のリピーターとなるように、より幅広い世代、広い地域から来館者を集める取り組みが重要となる。あらゆる世代を誘客できる展示や事業づくり、愛媛を越えて中四国、九州、近畿までも視野に入れた来県価値の創出が望まれる。それにより当館の来館者減少を抑えるとともに、本県の文化的価値を県外にも広め、高めることが期待される。



愛媛県の人口推移グラフ (2025 年以降は推定値 R7 愛媛県人口対策推進本部会議資料より)

	平成 7 年度	令和 6 年度	比率
県内小中学校数	558 校	406 校	73%
県内小中学校児童生徒数	162,462 人	94,457 人	58%
科博来館小中学校数	107 校	71 校	66%
科博来館小中児童生徒数	10,467 人	3,935 人	38%
科博来館幼稚園・保育園数	24 園	65 園	271%
科博来館幼・保幼児数	1,921 人	2,762 人	144%
科博来館幼児児童生徒総数	14,022 人	8,319 人	59%

開館以来 30 年間の小中学校児童生徒来館数、来館園児数、幼児・児童・生徒総来館数の変化



学校団体利用比率 (館内調査 R4~6 年度平均)

一般県民調査による科博満足評価 (令和 6 年調査)

3 施設の現状と課題

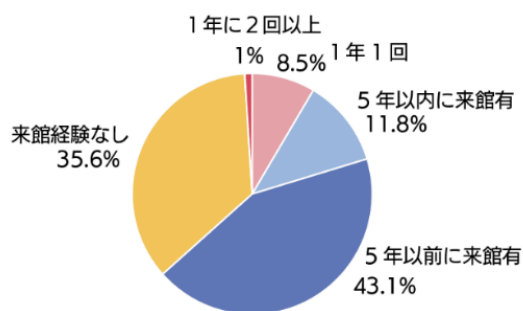
(1) 県民と科博利用者の声

一般県民に対する当館利用調査では、開館以来 30 年経過してもなお、来館未経験が 3 割に上っている。またしばらく来館していない層も多く、これら層の興味を引き出すことは今後の当館に重要である。

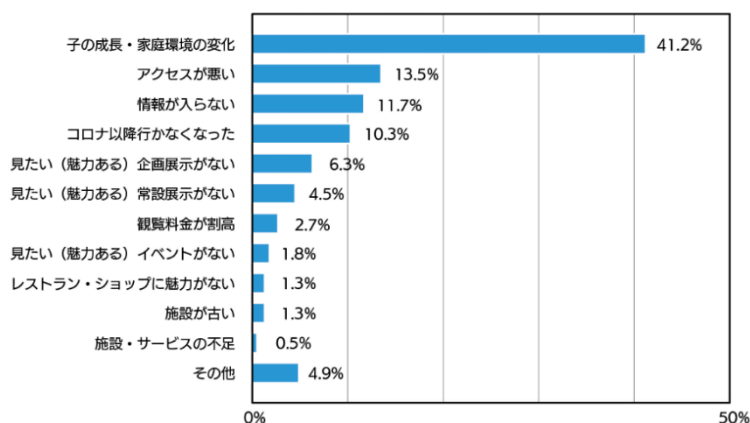
5 年以上当館から遠ざかっている層の来館しなくなった主な理由は子どもの成長や家庭環境の変化である。アクセスが悪い、情報が入らない、コロナ以降行かなくなった等の理由に加え、当館事業に魅力を感じないことが挙げられる。当館への要望としては、話題性のある展覧会開催、常設展示リニューアル、レストラン・ショップの充実といった施設の魅力向上が挙げられた。続いて生徒の発表の場づくりやオンライン予約などの利便性向上、地域周遊の促進、体験展示の更新などが挙げられ、情報発信の強化や実施事業の充実、施設機能の向上も求められている。

来館者の対面調査では、当館に何度も来館してもらうには、常設展示のリニューアルや企画展示、プラネタリウム番組の話題性が重要であることが改めて示された。また、大人のみ来館には消極的で、科学の面白さの体験や最新技術を使った体験といった当館展示の充実に加え、教養講座など大人を対象にした事業展開の必要性が多く指摘された。さらに、地域貢献や子育て世代の交流、愛媛の魅力発信などの必要性を訴える声も多かった。

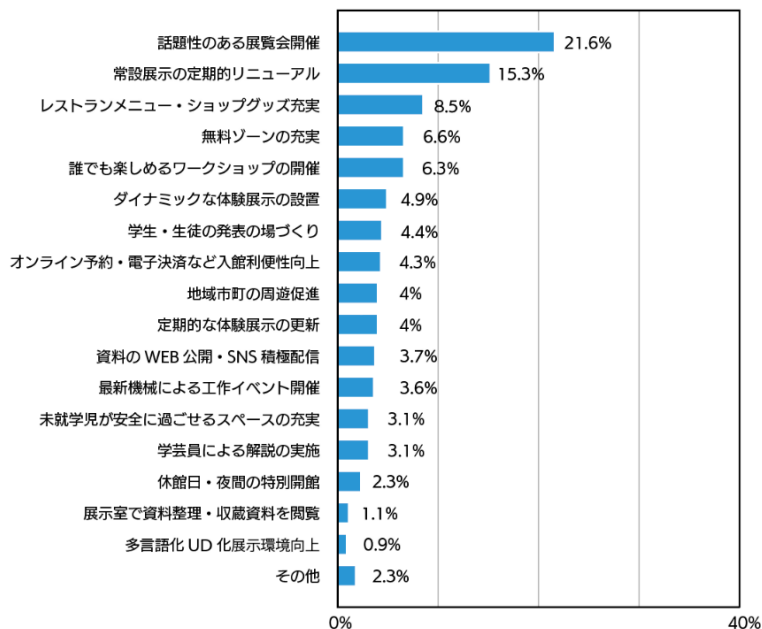
常設及び企画展示、プラネタリウム、施設機能等の更新に加え、プログラムの充実によって、多くの県民の興味を喚起するとともに、情報発信の対象を親子連れ中心から県民全体へ拡大する。これにより、幅広い層の主体的な当館活動への参加機会を提供し、地域の科学に関する文化活動や調査、探求活動の受け皿として市民活動を支援しながら、多様な利用者と連携を深めることで、地域の活性化につなげていく必要がある。



一般県民による科博来館経験比率（令和 6 年調査）

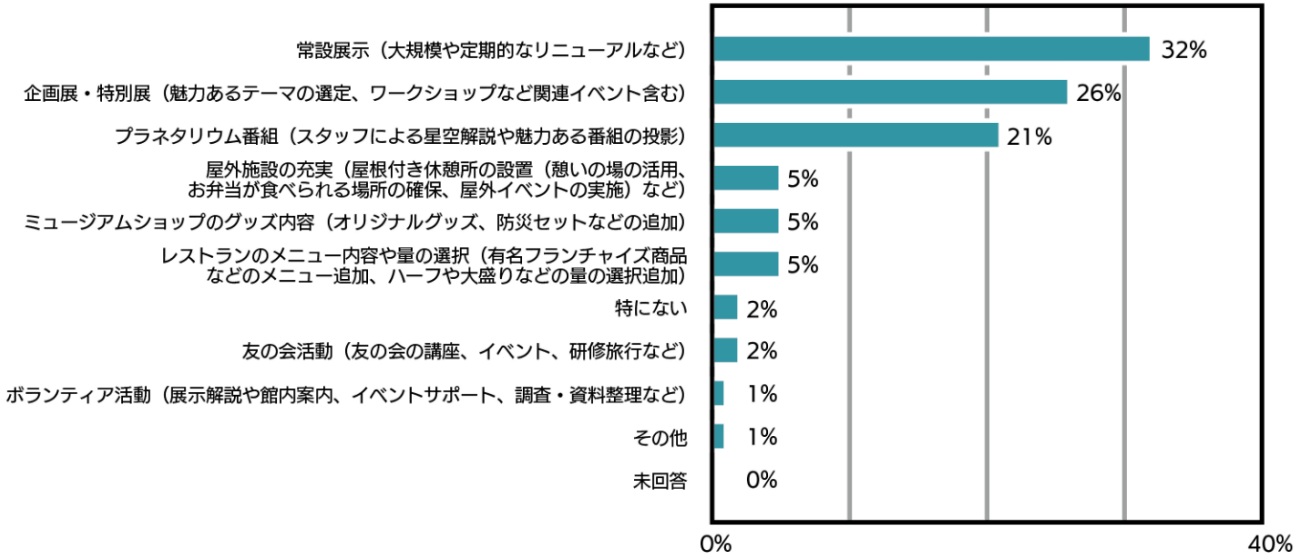


5 年以上来館経験がない県民の来館しなくなった理由と比率（令和 6 年調査）

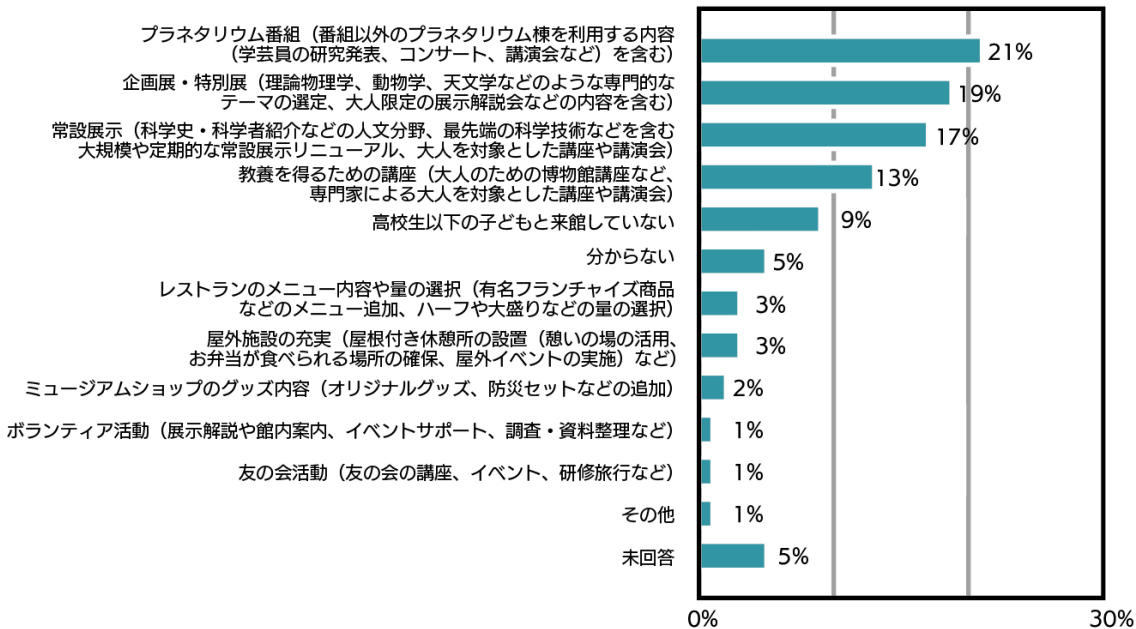


一般県民による科博への意見と比率（令和 6 年調査）

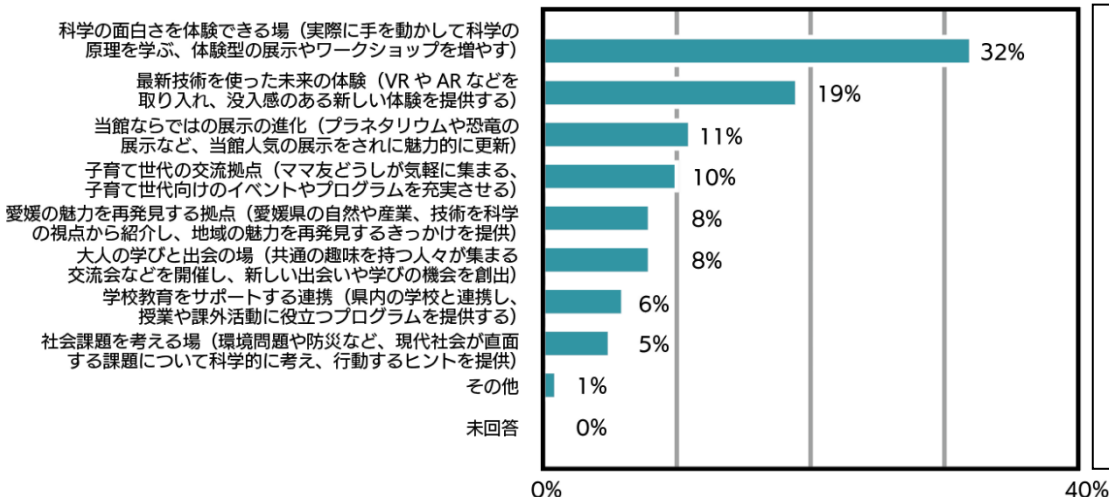
来館者による科博への要望等調査結果



来館者による科博の何を充実すれば何度も利用したくなると思うか (令和7年調査)



来館者による子育ての後の何を充実すれば大人だけでも来館したくなると思うか (令和7年調査)



【関連設問】
 「その他」と答えた方のみお答えください。上記以外に期待することがあれば自由に御記入ください。
 ・リアルな講演が興味あります。
 ・都会でしか聞けない見れない等
 ・小中高生の居場所

来館者による科博が地域貢献できる施設となるのに特に重要と思う項目は何か (令和7年調査)

(2) 施設の現状

当館は開館 30 年を過ぎており施設の老朽化対策や展示内容の更新が必要となっている。加えて現代の来館者ニーズに一層適合する設備整備も求められている。

プラネタリウム

○機器の老朽化と代替品の枯渇

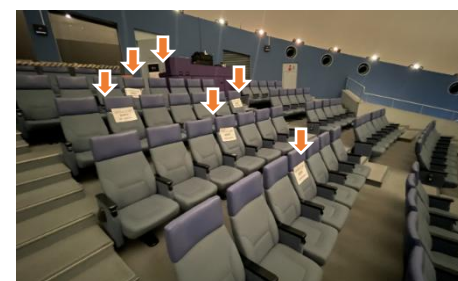
- ・ 投影機をはじめ各種機器が耐用年数を経過しており、頻繁に不具合が発生している。
- ・ 代替製品の製造終了により、交換部品の入手が困難な状況で、安定した投影の維持が難しい状態である。
- ・ 投影制御器の機能が旧式で、即時性のある情報や映像等を投影できず、館外との連携事業の推進に支障がある。
- ・ 番組制作環境が老朽化しており、来館者の多様なニーズに応える番組制作が困難である。

○安全性・快適性の問題

- ・ 座席のリクライニング機能に不具合箇所が増加しており、観覧者にとって不便である。
- ・ 家族シートやカップルシート、乳幼児専用ブースなど、多様化する観覧スタイルを構造的に対応しきれていない。
- ・ 投影中のやむを得ない移動時に足元が見えづらい階段の使用など安全面でも十分な配慮が必要である。



投影機器は耐用年数を超過している



リクライニング不具合の席が多い

常設展示

○大規模リニューアルの未実施について

- ・ 開館以来 30 年に渡り、自然館や科学技術館では部分的に展示更新を実施したが、全館を一新する大規模リニューアルを実施していない。
- ・ 初期に設定した展示ストーリーは、部分更新により分断され、伝えたいメッセージが十分に届いていない。
- ・ 自然や産業など多様な要素を包括的に取扱い愛媛の魅力を表現する最新の展示構成に至っていない。
- ・ 魅力的な展示であっても、来館者が気づきにくく、構造面で改善が困難な部分がある。
- ・ 学校教育に準じた学習的構成の一部が不足し、展示スペースの制約も大きい。
- ・ 最新の科学技術や研究成果、社会的関心を反映した展示が十分でなく、特に大人層の嗜好に答えられていない。
- ・ 産業展示は資料の一部追加やケース内の資料入替に留まり、大規模な展示更新は行われていない。

○設備・展示環境が老朽化及び不十分

- ・ 現在の展示用の設備や展示物は作り付けが多く、構造的に更新・修繕・改修が難しい箇所が散見される。
- ・ 人気の体験装置が老朽化し故障が頻発している。
- ・ 幼児のいる来館者対応のために設置したコーナーが子育て世代向けの交流スペースとして十分対応できていない。



内容が陳腐化し、かつ構造的に更新が難しい展示箇所



故障が頻発する人気体験装置

- ・ケースの展示構造上演出が制限されることや床面積が不足して恐竜の骨格標本など大型資料の展示点数が限られるなど、既存の企画展示室では、魅力的な大型巡回展の誘致が難しい。
- ・屋外展示の屋根の撤去に伴い、来館者の日よけ場所がなくなったほか、資料保存の観点からも展示資料の劣化防止対策が求められている。
- ・産業館設計上の制約により、新規に県内企業の成果や製品の展示するスペースの確保が難しいほか、スゴ技をはじめとする県内産業の魅力の発信が十分でなく、地元企業への理解や人材育成につながる展示に課題がある。
- ・市町や企業等の連携はソフト事業中心であり、実物資料の展示等の機会が限定的である。

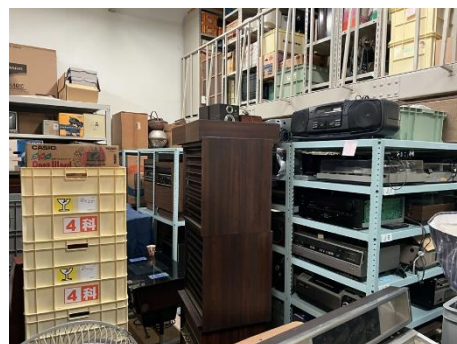


構造的に、ソフトの更新や装置の修繕、改修が難しく、撤去もできない展示

収蔵庫

○収蔵スペースの飽和と環境整備の遅れ

- ・全ての分野で収蔵庫が飽和状態であり、大型資料の受け入れが困難になっている。
- ・適切な資料保存のため、空調設備追加や環境整備が必要である。
- ・既存設備は燻蒸に関する新しい規制に対応するため、防虫防菌作業空間の確保が求められている。



飽和状態の収蔵庫

○資料公開とデジタル化資料の活用不足

- ・14万点の資料のデジタル登録と公開は進めているものの、全資料の登録と公開に至っていない。
- ・常設展示や企画展等でより多くの資料を公開し、科博の文化的な価値普及に努める必要がある。
- ・デジタル資料の観光利用促進も今後の課題である。



タイル破損で安全快適性に課題

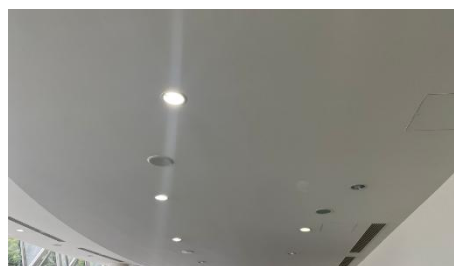
施設全体

○老朽化に伴う快適性の課題

- ・設備の老朽化によりクールシェア、ウォームシェアなど快適な温度環境の提供が難しくなっている。
- ・屋外のタイル破損など来館者の安全や快適性確保に課題が残る。
- ・館内のLED化未対応箇所が残存している。

○新しい来館環境への未対応

- ・事前予約やあらゆる媒体での電子決済など、来館環境の利便性向上に遅れがみられる。
- ・カフェ機能強化などハードの改修を伴う来館者ニーズの対応に苦慮している。



照明のLED化が遅れている箇所が残存

検討会 構成員 の一言

- ・展示標本の老朽化、昨今の知識に沿わない部分は改善が必要（堀利栄構成員）
- ・展示物の清潔感は重要、見た目が地味じゃない方がよい（渡邊真菜構成員）
- ・見せ方の工夫で博物館としての魅力を高めることができる（村上彰彦構成員）
- ・資料整理は人材育成も大切（茨木靖構成員）

(3) 施設の環境分析

施設の現状と環境を多角的に分析するため館職員で SWOT 分析を行った。

	ポジティブ	ネガティブ
内部環境	S Strength (強み) <ul style="list-style-type: none"> ・自然・科学技術・産業の幅広い分野と 30 万点以上の収蔵資料 ・常設展示の広い床面積と大型展示群の活用 ・企業や教育・研究機関との豊富な連携経験 ・多彩な研究活動の充実と事業への還元 ・教材開発・アウトリーチの豊富な経験 ・家族の高い認知度と来館経験 ・常設展示の高入館比率と高いリピーター率 ・増加する低年齢層への豊富な事業経験 ・飲食スペースの設置 ・団体利用空間の準備 	W Weakness (弱み) <ul style="list-style-type: none"> ・大規模展示更新未経験と老朽化装置の増加 ・最先端科学展示の乏しさ ・企画展示室が狭い ・プラネタリウム老朽化と最新技術未対応 ・プラネタリウム故障座席の増加 ・資料収蔵場所の限界 ・公開資料点数が少ない ・wi-fi 等施設のインフラ未整備 ・乳幼児・高齢者向けの事業乏しい ・飲食、物販が来館目的にならない ・入館予約等来館者利便性の非対応
外部環境	O Opportunity (機会) <ul style="list-style-type: none"> ・改正博物館法対応 (資料 DX、文化観光) ・高速道路 IC 横の好立地 ・周辺市町との産業、観光連携機運 ・入館者の低年齢化と子育て環境整備ニーズ ・継続的な寄贈依頼 ・学生への県内企業情報提供機運の高まり ・通信、AI 等技術の革新と利用難度の軽減 ・スマホの普及で即時の検索や撮影、決済等 	T Threat (脅威) <ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少と高齢者比率の増加 ・観光ルートからの取り残される ・類似施設、商業施設の新設、リニューアル ・県外、外国人への非認知 ・来館方法の不便 ・学校数生徒数の減少 ・学生、大人だけ、高齢者の来館が乏しい ・東予地域観光客の乏しさ

SWOT 分析で整理した施設のもつ今後の有効戦略

S × O 積極的 (攻勢) 戦略

- 自然・科学技術・産業の豊富な資料を活用した愛媛の魅力伝える新しい常設展示の整備
- 文化を継承しシビックプライドを醸成する展示、事業を展開
- 地域貢献強化、連携強化、文化観光推進で持続可能な活動を支える地域基盤づくりの推進
- 学校教科と実物資料、体験展示がリンクした総合的な学習空間の整備
- 飲食やグッズ、休憩箇所などの施設付加価値の整理と発信

W × O 改善 (弱点克服) 戦略

- 最先端科学の展示、収蔵資料の新規公開、幅広い来館ニーズに応える大規模展示更新の実施
- 通信機能強化で地域連携事業を充実し、観覧環境向上ニーズに対応できる新しいプラネタリウムに更新
- より広い地域からの集客と新しい来館者層獲得のための大型企画展示室の整備
- 収蔵資料の DX 推進強化で観光情報発信などの地域連携事業を充実
- 事前決済などデジタル利便性向上で来館障壁を低下させ、より広い来館者層獲得を目指す

S × T 差別 (防御) 化戦略

- 豊富な資料や教材開発等の知の集積アピールで施設価値を発信
- 飲食や子育てサービス等も含めた総合的な価値で、長時間滞在できる施設利用の提案

W × T 防衛 (撤退) 戦略

- 来館動線整理等の安全性向上により、多様な利用者への安心安全で快適な来館環境への転換
- 大人や高齢者、外国人等に向けた積極的な情報発信による、新規来館者層の開拓

(4) 科博を取り巻く環境の変化と課題

近年、地方の科学博物館を取り巻く環境は大きく変化しており、全国的に施設設備の改修や機能向上等の対応が求められている。当館においても、県民や来館者の評価と要望に加え、独自の環境分析や今後の活動方針の検討を通じ、施設の課題が一層明確となっている。

地方博物館を取り巻く4つの環境の変化

社会構造の変化に伴う学習課題

- ・ 少子化、若年層の人口流出と県内産業の担い手不足
- ・ 高齢者の継続した社会参画必要性
- ・ 防災意識の向上と防災・減災教育の必要性
- ・ 環境やエネルギー問題に対する課題のクローズアップ
- ・ 情報技術の普及と情報リテラシー向上
- ・ 多様な利用者を想定した教育の機会

次世代の育成と教育の質向上

- ・ 生徒数の減少に伴う学校数の減少ときめ細かな教育意識の向上
- ・ 家庭における学外教育への興味の上昇
- ・ 実体験・実感の伴った学習への回帰
- ・ 地域を理解し、地元に向けた教育への期待
- ・ 地域産業と学生のマッチング機会の増強
- ・ 自然科学の進歩への対応
- ・ 学校のデジタルツールを公共施設で活用する際の連携不足

地域中核施設としての貢献と情報発信

- ・ 社会教育施設や研究教育機関との連携事業
- ・ 文化観光ルートの開発と協力連携
- ・ 県内企業と連携して、技術や職業の重要性を発信
- ・ 科博の貴重資料等の文化資産の価値を広く発信し、利用を促す
- ・ 市町の地域情報発信に科博情報の掲載を期待
- ・ 博物館教育資産提供の地域差解消

地方博物館が抱える課題

- ・ 改正博物館法への対応
- ・ 地域の文化資産である博物館資料を後世に残す必要性
- ・ あらゆる世代、多様な利用者が交流を深める場になる必要性
- ・ 地域連携で文化観光促進による圏域での魅力向上
- ・ 県内外から交流人口の増加を目指す
- ・ 交通インフラ変容による来館機会の低下

県民・来館者による
科博評価・要望



科博の環境分析

科博の課題の一層の明確化

(5) 科博への要望・分析と課題

プラネタリウム・天文事業の充実	
要望・分析 <ul style="list-style-type: none"> ○天体観測のプラネタリウム活用 ○天文資料収集とプラネタリウム投影での公開 ○魅力ある番組が見たい ○安全快適に観覧したい ○乳幼児が泣き出しても退出しなくてよい観覧環境が欲しい ○家族シートやカップルシートの導入 ○講演会や音楽イベントなど施設の多機能化 ○貸館施設としての運用ニーズがある ○番組の観光利用や地域連携利用が必要 	課題 <ul style="list-style-type: none"> ○予備の部品、機器の備蓄の不足 ○機器耐用年数を越えた機器の使用 ○リクライニング機能不全の座席の増加 ○現代の多様な観覧環境ニーズへの非対応 ○投影中の観客移動時の安全対策の必要性 ○高度な天文教育に対応した番組投影機能の不足 ○番組制作環境の老朽化 ○天文台や国内外の施設とコンテンツの同時投影が困難 ○投影機の機能拡張性の確保

展示室の更新	
要望・分析 <ul style="list-style-type: none"> ○定期的なリニューアルの実現 ○魅力ある展示や最新科学の展示 ○科博ならではの展示の進化が必要 ○地域の紹介、魅力発信の展示が必要 ○最新技術やダイナミックな未来技術の体験 ○知的好奇心を満足させたい ○学校教育をサポートする展示が必要 ○学生の発表の場が必要 ○ものづくり・起業精神を高めたい ○企業と生徒・学生のマッチングに展示を利用 ○安心安全な子育て空間の整備 ○大人の学びや出会い、交流の場としての必要性 ○防災や環境など社会課題を考える場が必要 ○魅力あるテーマや話題性のある企画展示 ○企画展示の高機能化が必要 	展示室の課題 <ul style="list-style-type: none"> ○老朽化した装置、陳腐化した展示の増加 ○展示解説の現代科学への適合不足 ○常設展示における資料公開点数の少なさ ○愛媛の魅力を包括的に伝える展示演出が未整備 ○最新の自然科学、現代産業の動向の伝達不足 ○学校の学習単元に合わせた体験プログラム不足 ○子育て世代向け交流スペースの不足 ○大人層、高齢者向け展示の不足 ○企画展示室が狭小であり大規模巡回展の開催が困難 ○古い展示配置及び構造による学芸員による展示更新の制約

収蔵庫拡充と新しい資料保存活動

<p>要望・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料のWEB公開に努めてほしい ○貴重な資料を見たい ○資料情報をもっと発信してほしい ○県内各地域に根差した資料公開の必要性 ○施設の文化価値の還元 ○資料情報を通じた地域連携の必要性 ○化石のクリーニングなど資料の処理を見たい ○バックヤード見学をしたい ○資料保存の大切さ、博物館の重要性を伝える ○資料整理保存の人材育成の必要性 ○新たな防虫防菌作業空間確保の必要性 ○新しい収蔵施設の必要性 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の公開点数の増加及び来館者の資料に触れる機会の拡大 ○資料公開の地域の偏りの解消 ○デジタル化収蔵資料の活用促進 ○資料収蔵箇所の不足 ○県内各地の収蔵箇所調査の遅延 ○燻蒸薬剤の規制に対応する新規作業場所の確保
--	---

施設整備と利便性向上・情報発信

<p>要望・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内の市町、学校、研究機関との連携の強化 ○利用者による近隣施設との周遊の強化 ○地域振興と利用者間交流の活性化 ○県外・外国人観光客などに積極的に選ばれる施設になる努力 ○子育てが終わっても情報が欲しい ○家庭や仕事の環境が変わると来館しなくなる ○企業情報や観光情報の検索をしたい ○県内認知度の上昇と施設ファン拡充の必要性 ○アクセス方法が悪い ○レストラン・ショップの魅力アップ ○無料ゾーン、休憩所などを充実 ○カフェ機能を充実 ○未就学児が安全に過ごせるスペースが欲しい 	<p>施設・発信の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前予約制や媒体に依存しない電子決済など現代的なチケットの遅れ ○あらゆる世代や対象に情報を届けるための広報箇所選定の調査範囲の拡大 ○科博に関心の高い層への効果的な情報発信不足 ○来館ニーズ調査の不足及び来館未経験層の多さ ○館内温度調整機能や休憩箇所不足など快適性の不足 ○ショップやレストラン、休憩所の動線の不明瞭さ ○施設で過ごす利用者の安全性快適性の更なる向上
--	---

検討会 構成員 の一言

- ・企画展示室の高機能化で、大規模で高価値な展示を地方開催するのは、サービス向上に加え、地方施設の重要性を発信する上でも重要（吉岡克己構成員）
- ・収蔵庫が圧倒的に狭い。収蔵スペースの確保が急務。（茨木靖構成員）
- ・来館者の行動心理を意識するとともにストーリー性を持たせた動線・レイアウトが重要（吉岡奈津子構成員）
- ・災害教育、防災意識の醸成に力を入れてほしい（青野力構成員）

第3章 総合科学博物館の理念と方針

1 科博の基本理念 スローガンとミッション

当館の設立目的である科学的な思考力と創造力の涵養、ならびに産業発展への寄与を継承しつつ、時代の要請である地域連携の深化と地域活性化への貢献も包含する。この理念はスローガンとして表し、当館の具体的な存在意義をミッションとして示す。

(1) スローガン

あつめる つなげる 未来をひろげる
～好奇心をはぐくみ 新たな海原に漕ぎ出す 愛媛のサイエンスシップ～

愛媛の資料や情報を収集・活用・発信することで（あつめる）、人々の共通の関心を高め、交流や協力の機会によりネットワークが構築される（つなげる）。こうしたつながりは、地域のアイデンティティと愛着の醸成や、地域課題の解決に向けた活動、経済や観光への間接的な波及効果を生み出し、愛媛の活性化を促進し、明るく期待感に満ちた未来への可能性を広げる。（未来をひろげる）。

愛媛の豊かな海との縁を鑑み、社会が直面する課題等を「新たな海原」と比喩的に表現し、「サイエンスシップ」は、好奇心を育て、科学知識を道しるべに、地域の宝である資料や知識を大切に抱えながら、力強く漕ぎ出し、科学的な精神をもって未来を切り拓く姿になぞらえている。

(2) ミッション

スローガンに表現される当館の理念は、具体的に次の3つのミッションとして当館の果たすべき使命を示し、活動の柱として位置づける。

資料を残し伝えることで、未来を創造する科学博物館

県民が、科博の資料の価値や後世に残し伝える意義を理解し、私たちを取り巻く自然の大切さや産業発展の重要性について考える機会を育むことで、愛媛の過去と未来のつながりを重視し、未来の姿を創造する風土を整える。

思考力と創造性を育み、世代を超えた交流を促進する科学博物館

思考力と創造性を育む活動を推進することで、自然、科学、産業の知識を蓄え楽しむ文化を根付かせ、持続可能性を考える科学リテラシーを高めるとともに、子育て世代をはじめ生涯学習に関わる多様な世代や利用者間に交流を創出するほか、愛媛の産業振興に寄与する人材育成の場を提供する。

情報発信を活用し、安心安全な生活と地域活性化をけん引する科学博物館

科博の文化資産を基に、県内外の関係人口や交流人口を増やし、地域の活性化に貢献するとともに、多様な地域の主体に対し情報発信を行い、観光や環境問題、災害対策など地域の諸課題を相互コミュニケーションを通じて解決に取り組むよう働きかけを行う。

2 科博が将来実現すべき姿（ビジョン）

当館は3つのミッションに即して中長期的に実現を目指す姿を次のように想定し、それら実現すべき姿を当館のビジョンとして3つのフレーズにまとめる。

科博が中長期的に実現を目指す姿

資料を残し伝えることで、未来を創造する科学博物館

- ・科博資料を様々な場面で公開し、見て触れることでその価値を理解してもらうとともに、県民にふるさと愛媛を愛する心を育み、知的好奇心を喚起し、探求心や創造力を育てる活動を行う。
- ・愛媛の自然環境およびそこに育った産業を包括的に学び、その大切さを実感し、ふるさとの過去と未来に思いを馳せる心を育てる活動を推進する。
- ・県民が愛媛県の未来について語り、具体的な行動を起こせるように、住民参加型の調査や資料収集を充実させるとともに、ふるさとの魅力を県民が見出し、後世に伝える機運を醸成する活動を行う。そのために、科博の文化資産を県内に地域差なく巡回活用する。

思考力と創造性を育み、世代を超えた交流を促進する科学博物館

- ・県民の自律的な学びを深める習慣を支援し、持続可能性を考慮した科学リテラシーを向上させ、生涯学習の場を創出し、地域全体で学習活動を活性化させる活動を行う。
- ・児童・生徒・学生には学習到達度に応じた科学の楽しみを、家族連れには学習効果や話題性の高い情報を、大人には速報性が高い情報と主体的に参加できる活動の場を、乳幼児の子育て世代には安心して学ばせることができる交流の場を、高齢者には健康情報や世代を超えた交流の機会を、幼児には科学に初めて触れる感動を、企業には青少年と産業とのマッチング機会を、障がいのある方には感覚を大切に科学体験を提供するなど、多様な利用者が繰り返し利用することで、思考力と創造性を育む場を創出するとともに、各ライフステージに対応した学習文化情報を提供する。
- ・遊ぶ、学ぶ、体験する、参加する、発表するなど多様な活動と交流の場を創出し、愛媛の産業振興に寄与する人材育成の場を提供する。

情報発信を活用し、安心安全な生活と地域活性化をけん引する科学博物館

- ・人と人をつなぎ、安心して交流する場を創出し、青少年が科学者、技術者、起業家などと出会い、調査研究や様々な主体との連携を地域住民と共に推進することで、未来の愛媛を創造する機運を醸成するとともに、中四国全体の科学水準の向上を図る活動を行う。
- ・市町や地域の施設、教育機関、研究機関、企業などと連携・協力し、教育、観光、防災など地域の情報を共有し、新規性があり魅力的な事業展開に努め、県内の魅力を博物館の視点と価値観をもって発信する。
- ・科学的知識を基に、災害に対する理解を深め、防災の知識の向上を推進する活動を行うとともに、最新科学の動向など話題性の高い情報の発信によって県内外からの誘客促進に努める。

科博のビジョン（3つのフレーズ）

- 科学に親しみ、ふるさと愛媛を愛する心を育み、探求心や創造力を育てる
- ライフステージに合わせた自律的な学びを深め、地域全体で学習活動を活性化させる
- 科博での交流や地域連携を通じ、未来の愛媛を創造し産業振興に寄与する人材を育成する

3 科博の目指す活動方針（アクションプラン）

当館の理念やビジョンを達成するため、次の5つの活動方針のもと事業展開を図る。

○郷土愛とシビックプライドを育む愛媛の魅力発信

ふるさとの成り立ちの学習機会を提供するため愛媛の自然環境および産業について調査研究を行い、直感的に理解し実感できる展示や事業を展開する。

郷土を愛する心や愛媛で生まれ育ったことへの誇りを育てる展示及び教育普及事業を進め、未来の愛媛を支える人づくりにつながる連携や事業を実施する。年に数回来館するリピーター層を増やし、主体的な活動に参加できる機会の周知と情報発信を強化する。また、県外からの来館者が愛媛の魅力を見出し、愛媛ファンを増やすとともに、来県意欲を高める情報発信に努める。



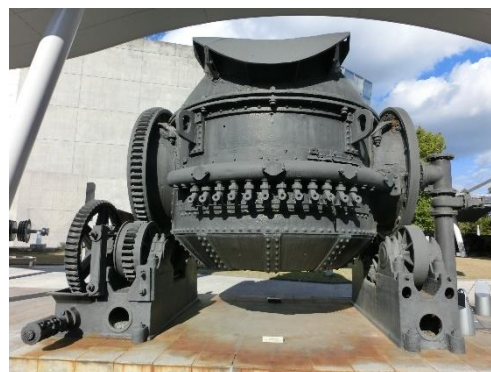
○人々が集い活躍する全世代交流空間の提供

様々な世代が集うことができる展示、イベントスペース、ショップ、休憩所を整備し、中四国一円などからの誘客を促すとともに、共に学び交流し誰もが活躍できる事業を実施する。平日でも子育て世代や高齢者が楽しめる空間を創出するほか、専門人材の活躍と交流の場を提供する。若い世代に対しても事業参加や学習・発表を促し、多様な人材が交流できる環境を実現する。さらに、住民参加の調査研究、資料収集事業を通じて世代を超えた交流を促進するとともに、中四国の学習・研究発表の活性化を図り、研究・交流を通じた人材育成を目指す。



○地元産業の求心力と活力の向上

愛媛の産業の魅力を実物や製品、人を通じて若者たちに伝え、将来の愛媛を担う人材育成に貢献するとともに、愛媛産の実物の迫力伝える展示を展開し、県内産業の魅力を積極的にアピールする。また企業による展示物の設置を通じて、地域産業の理解促進に努めるとともに、若者が愛媛で暮らし、働く未来を描けるよう学校や企業と学生がマッチングできる機会を創出し、地域産業への人材輩出と活力向上を図る。



○博物館資料を利活用した、交流人口の増加

貴重資料の適切な収集・保存を進めるとともに、文化資産を県民に還元し、常設展示や企画展示等で公開資料の点数を増大させる。地域の文化活動や調査研究、観光等に資料を活用し、博物館主導で地域の魅力を発信することで、交流人口の増加を目指す。当館の資料は館内での公開にとどまらず、県内各所で利活用を進め、郷土文化資産の価値を広く県民に伝えとともに、自然、科学技術、産業を通じて愛媛の魅力発信の発信に努める。

また、地域住民に博物館資料の調査・収集・研究発表の場や活動スペースを提供し、住民自らの主体的な交流を支援する。



○科学的知識をベースにした県民の命と環境を守る地方コア

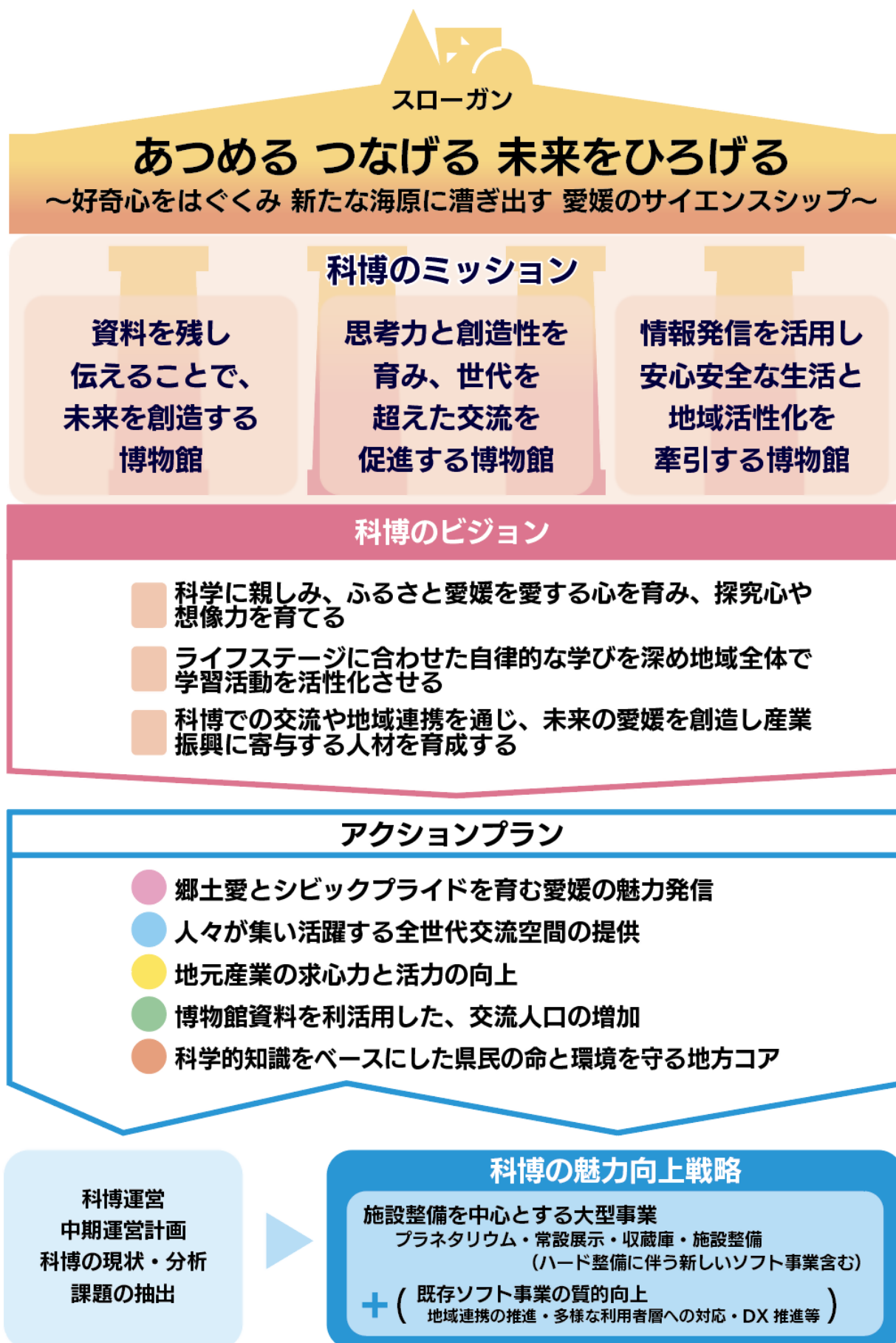
災害を科学的に分析し、防災知識の普及に努めるとともに、自然環境保護の重要性と産業との関係を学ぶ機会を創出し、自然との共生意識を醸成する。県民の命と環境を守る地方拠点として、エネルギー問題や生命、地勢から自然環境を理解できる展示や事業を展開するほか、検索性の高い展示等の設置を進める。県民が当館を情報収集に利用できる環境を整備することで、科学的知見に基づく防災や環境保護活動に主体的に参加する機運を醸成する。



検討会 構成員 の一言

- ・次世代人材育成やキャリア教育は重要で、学校で十分できない地元産業や技術に触れる体験を事業にどう取り入れまとめるかが大切になる。（茨木靖構成員）
- ・展示や施設の改修は収益性を見越したものが必要。施設の多機能化がキーとなる。（吉岡克己構成員）
- ・多様な来館者が利用しやすい環境整備と来館者への対応力の強化が不可欠。（村上彰彦構成員）
- ・入口は遊びからでもいいので、2度3度と来館して楽しんでもらう仕組みが重要。成長した子供をつなぎとめるためには遊びの要素だけでは足りない（坂井喜代己構成員）
- ・収蔵庫の増設とともに学芸員の準備研究スペースの確保、バックヤードの充実が望ましい（堀利栄構成員）
- ・愛媛の魅力発信、新居浜市は別子銅山をきっかけに産業が発展したが、銅山が閉山しても産業発展が続く都市は珍しく、世界的に注目されている。（青野力構成員）

4 科博の理念と戦略の構造図



5 科博ビジョン実現のための施設強化策

当館の理念やビジョンを達成するために、アクションプランに応じた展示等施設強化策をまとめる。

	プラネタリウム 	展示室更新 	収蔵庫資料整理 	施設強化 
郷土愛とシビックプライドを育む愛媛の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> 天体観測に適した県内地域や施設情報の発信 ドームを利用した県内観光地の迫力映像体験 	<ul style="list-style-type: none"> 自然と産業が融合した愛媛の魅力を紹介する展示の製作と公開 実物、体験を通じた愛媛ファン拡大展示を構成 	<ul style="list-style-type: none"> 県産の貴重資料、重要資料の公開と資料価値の展示化 来館しなければ伝わらない資料の迫力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛の魅力情報コーナー設置 観光や文化情報収集、地域周遊、ショッピング、グルメ情報提供
人々が集い活躍する、全世代交流空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> 様々な主体に応じた快適な観覧環境の提供 プラネタリウムを利用したイベント展開、貸館環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な来館者に興味を引く多彩な展示空間を創出 最新で高品質な展示演出の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 資料整理や資料解説、収蔵前処理を行う人材育成 地域の職業へのあこがれを育む展示の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 展示以外の来館促進設備やサービスの充実 来館前の障壁を除く、快適な来館動線構築
地元産業の求心力と活力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業関連の番組制作 ドーム投影される迫力映像を利用した産業や製品の番組制作 	<ul style="list-style-type: none"> スゴ技製品など産業展示の強化 企業と学生のマッチング促進のための展示や事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> 県内産業の変遷を実物で理解できる展示構成 企業力を実感できる資料の収集と公開 	<ul style="list-style-type: none"> 地元産業をアピールするブース等の設置 周辺地域の魅力や特性を感じるサービス提供
博物館資料を利活用した交流人口の増加	<ul style="list-style-type: none"> 天文台等で収集した資料映像等の利活用 質の高い独自番組制作による観覧者評価の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示室内の収蔵庫設置と資料公開機会の拡大 来館して実物を見たい資料演出 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル資料の活用による利便性の向上と実物資料の巡回で機会均等化 貴重資料の公開と広報強化 	<ul style="list-style-type: none"> 中四国圏域での唯一感をアピールする広報強化 愛媛らしさを来館動機に繋げる情報の発信
科学的知識をベースにした県民の命と環境を守る地方コア	<ul style="list-style-type: none"> ドーム投影される迫力映像を活用した災害、環境コンテンツ制作とイベント展開 	<ul style="list-style-type: none"> 防災減災や自然環境の展示コーナーの充実 防災情報収集意識を高める展示や事業開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地学資料で防災情報や自然環境変化を示す資料公開 	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報発信団体等の期間展示利用できるスペースの設置 来館者の一時避難場所としての整備

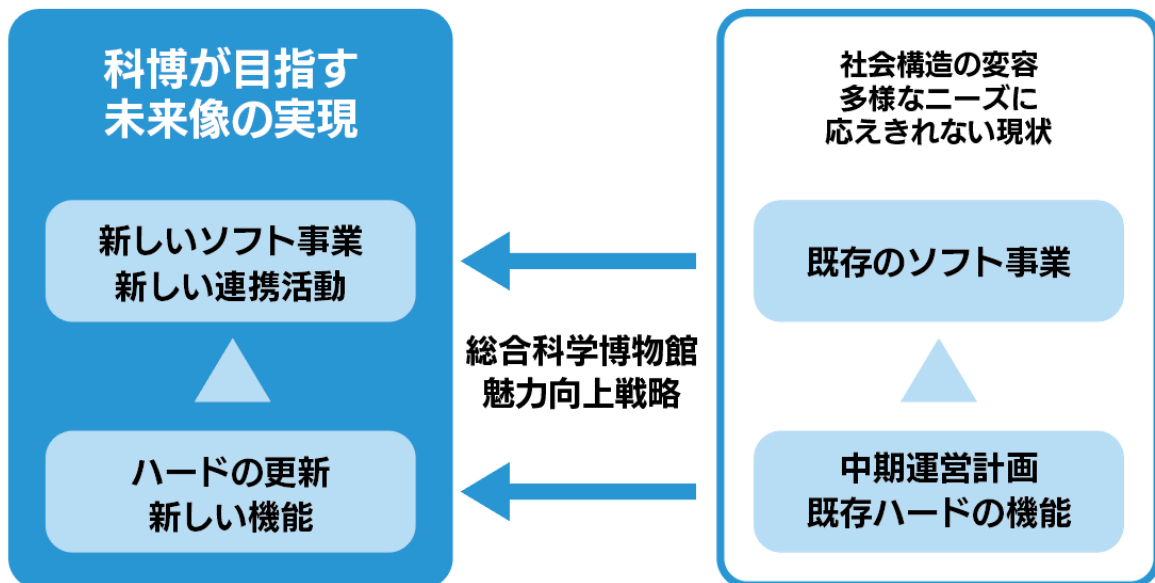
第4章 総合科学博物館魅力向上戦略

1 魅力向上戦略の検討体制と基本的な考え

令和7年5月に外部有識者による「愛媛県総合科学博物館魅力向上戦略検討会」を設置し、同検討会において、施設の現状評価、利用者ニーズ、県外の最新事例の調査を踏まえ、当館の新たなミッション、ビジョンの確認および持続的な発展に向けたアクションプランの策定について議論を行った。

本戦略は、検討会の議論を経て、今後の当館の魅力向上と活性化につながる取組の方向性を取りまとめたものである。

当館は現在も地域と連携し、県内の自然の豊かさや産業の魅力を伝えるイベント、子育て世代や高齢者を対象とした各種講座など数多くのソフト事業を展開している。しかしながら、既存ソフト事業の工夫のみでは急速に変容する社会構造や多様なニーズに対応することは困難な状況に直面している。当館の設置目的を果たすためには、将来の大型事業の実施を視野に入れ、地域連携の促進、多様な利用者層への対応強化、DXの推進を含む既存ソフト事業の質的向上を図るとともに、施設整備によるハード面の機能強化と合わせた新たなソフト事業を合わせて展開していくことが不可欠である。併せて、強化したハードを適切に運営し、充実したソフトを効果的に実施できるように、持続可能な運営体制の強化やボランティア等による地域の参画体制の充実を図っていく。



検討会 構成員 の一言

- ・ 次の30年も困ることがないように維持管理が容易になる仕組みを計画に盛り込むべき。(坂井喜代己構成員)
- ・ リニューアルの際は、悪い部分を直すだけでなく、その投資に見合う機能の向上が大切で、選択と集中が必要。(吉岡克己構成員)
- ・ 地域・県民の利用増加を目指し、リピートへの仕掛け、生涯教育の仕掛けが必要。周辺の教育機関や自治体と連携した充実感のある活動を目指す(堀利栄構成員)

2 魅力向上戦略の中心となる大型事業

当館が目指す未来の姿のために、施設に新たな機能を付加することが重要である。当館にはプラネタリウム、展示室、収蔵庫、建物および館内動線の多様な施設（ハード）があり、それぞれの役割に合わせた機能更新を行い、当館の魅力向上を推進する。

プラネタリウム・天文事業の充実

○プラネタリウムの更新

- ・老朽化した機器の更新および、双方向通信と投影機能の強化
- ・多様な利用者が楽しめる快適な観覧環境の構築
- ・世界最大級のドーム径を活かした独自プログラムの開発
- ・プラネタリウム以外の事業導入による施設稼働率の向上

○天文台の更新

- ・天体の自動撮影機能強化による資料収集
- ・通信機能追加とプラネタリウム連携による新しい天文番組の制作・投影



展示室の更新

○常設展示の更新

- ・自然・産業資料融合による展示ストーリーの制作並びに愛媛の魅力や愛媛ファンを増やす展示の展開
- ・常設展示の収蔵設備追加に伴う収蔵資料公開点数の増加
- ・資料整理作業等の学芸活動の公開で来館者サービスの強化
- ・学校教科学習支援とより進んだ学習内容の提供
- ・最新の科学、先端技術、産業情報に対応した展示づくり
- ・子育て世代へのサービス充実と高齢者ニーズ対応
- ・県内産業展示充実による次世代人材育成支援

○企画展示室の更新

- ・理工系博物館における中四国最大規模の企画展示室の設置



収蔵庫拡充と新しい資料保存活動

○常設展示室内収蔵と資料公開

- ・博物館資料のDX推進と展示、観光等への利用促進
- ・資料整理環境の公開と積極的な人材育成
- ・新たな防虫防菌作業空間の確保

○サテライト収蔵・公開

- ・地域の公共スペースなど館外の資料収蔵箇所や公開箇所の探査
- ・地域差のない資料巡回の推進



施設整備と利便性向上・情報発信

○利便性を向上させる新機能

- ・子育て支援・高齢者対応・観光連携等展示・教育外の機能の充実
- ・館内環境の安心安全性確保のための設備機能向上
- ・各種スペースの更新による利用者利便性向上と快適環境の整備
- ・館内通信インフラの整備
- ・地域との連携による交通の利便性向上



3 施設別の事業詳細

(1) プラネタリウム・天文事業の充実

方針

当館のプラネタリウムは世界最大級のドーム径を誇り、深い没入感と高い臨場感のある番組を投影できる。高品質の番組提供により天文への興味関心を促すとともに、リラックスできる安らぎの空間の提供を目指す。ドーム空間を利用して、多様な分野と融合したプログラムやプラネタリウム全体の貸館利用、イベント開催など、多彩な事業を積極的に展開することで、仕事帰りの大人層向けのナイトプログラムのほか、イベント参加に意欲的な団体、高齢者層、障がい者の利用促進を図る事業も充実させる。さらに、天文台の機能を追加し、天体観望会とプラネタリウムのコラボレーションにより事業参加人数の増加を図るなど、新しい天文教育を目指す。

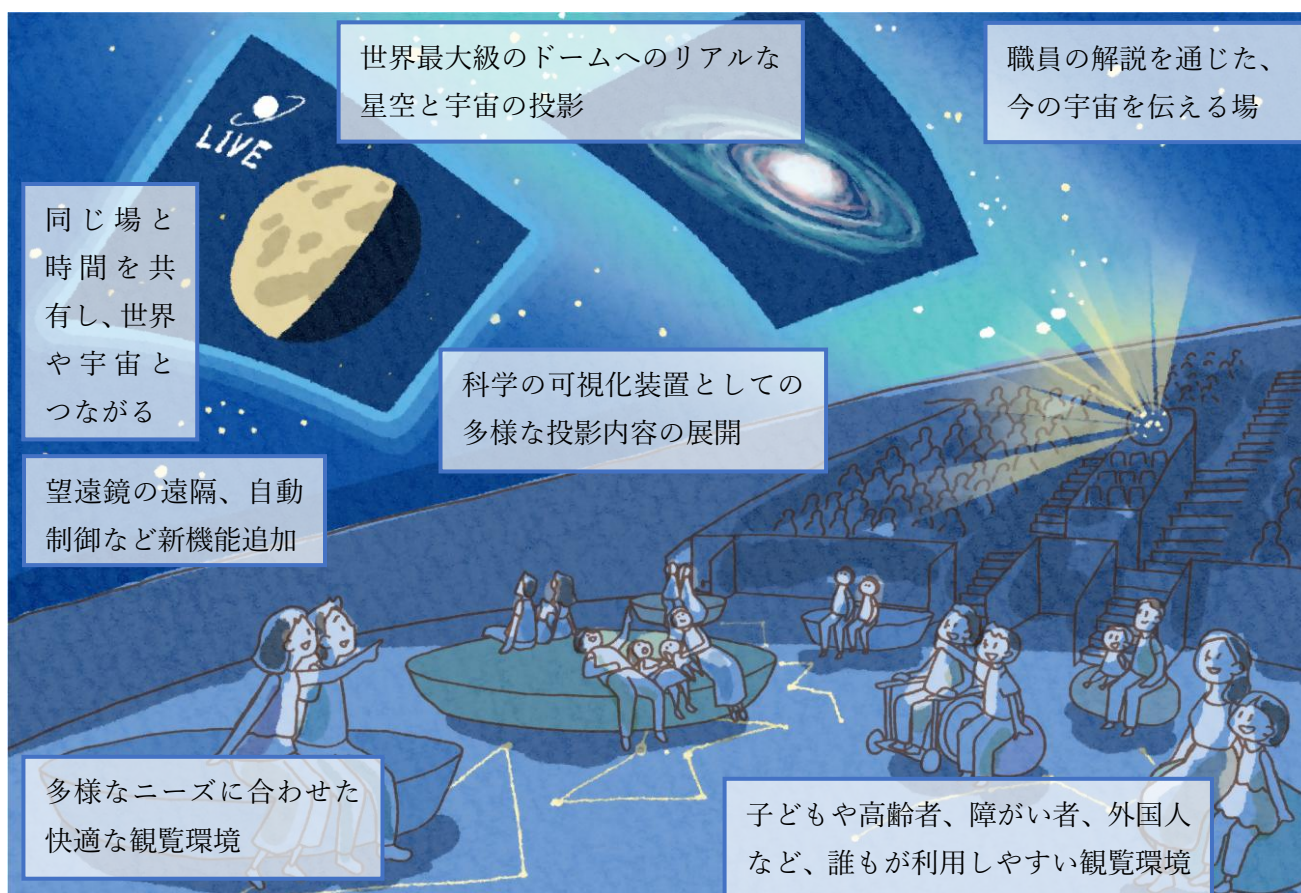
整備項目

○30Mドーム径に合わせた高精細投影

高輝度の投影システムを導入により、より高精細かつ臨場感あふれる星空投影や映像演出を実現し、観覧者により高い満足度を与える。

○天文台中継を利用した高自由度天文教育

天文台や天体観測所、観望会会場等と映像回線を結ぶことで、観覧者全員が星空の観覧や解説を楽しめる、より高度で自由度の高い天文教育の場を提供する。





高品質な番組制作環境の整備

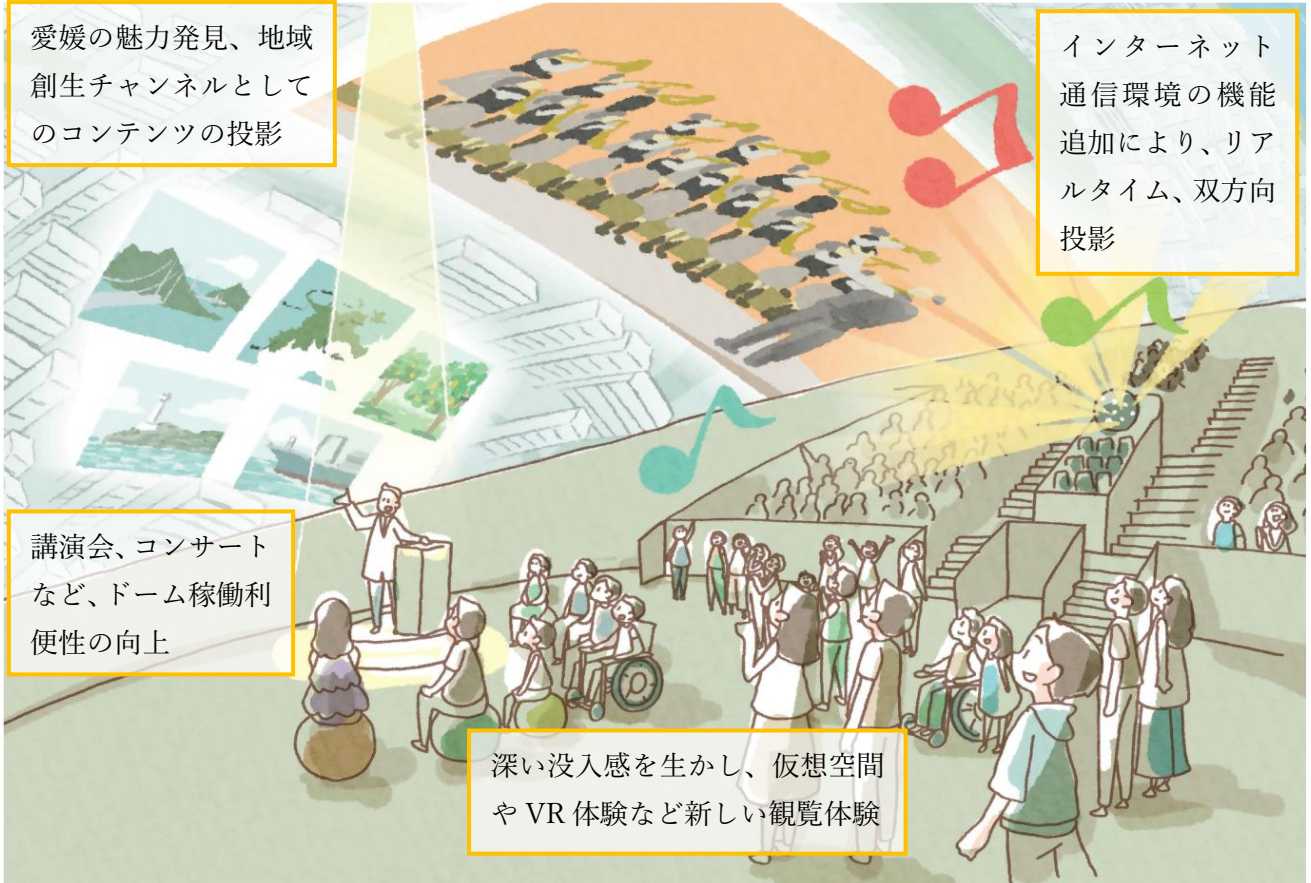
デジタル技術との親和性を生かした未来技術の体験



夜空のモニタリング観測による天文映像資料の収集

愛媛の魅力発見、地域創生チャンネルとしてのコンテンツの投影

インターネット通信環境の機能追加により、リアルタイム、双方向投影



講演会、コンサートなど、ドーム稼働利便性の向上

深い没入感を生かし、仮想空間やVR体験など新しい観覧体験

○快適な観覧空間と自由度の高い配席
座席の間隔や配置の見直しや、よりリラックスできる材質や態勢の座席の導入、やむを得ない投影中の移動の安全確保により、安全・快適な観覧空間を提供するとともに、カップルシートやファミリーシートを導入し、広い来館ニーズにも対応する。また、講演会やコンサート等でも楽しめる座席の配置や音響照明にも考慮した設計とする。

○世界と結ぶ仮想空間
インターネット回線や館内通信環境を整備し、世界中の各施設から提供された星空や映像をリアルタイムかつ双方向に投影できる機能を備える。また、メタバースなど仮想空間やVR体験、博物館資料の内部探検といった深い没入感を利用した新しい観覧体験を提供する。

○愛媛の魅力を発信する映像展開
県内観光地のフリスルー映像や県内産業の作業や建造シーン、芸能、スポーツ、音楽、美術といった文化等事業の映像を投影することで、市町との観光・事業連携による魅力発見、県文化の理解促進に寄与するプログラムを提供する。

○地域創生チャンネルとしての機能
オリジナルの番組制作環境、設備を活用し、県民参加の映像コンテンツ作りを支援することで、地域理解や町おこしのきっかけづくりに貢献する。

(2) 展示室の更新

方針

常設展示には学習機会の提供に加え、愛媛県の魅力を伝える文化観光機能を強化するとともに、積極的な情報発信により、何度来館しても新たな発見を得られる展示空間へ更新し、リピーター増加の原動力とする。さらに、中四国地域で空白となっている国内最大級の巡回展示の誘致が可能な新しい大型企画展示室を設置し、近県も含めた交流人口増大を図る。

整備項目

○愛媛の自然と産業を総合的に俯瞰

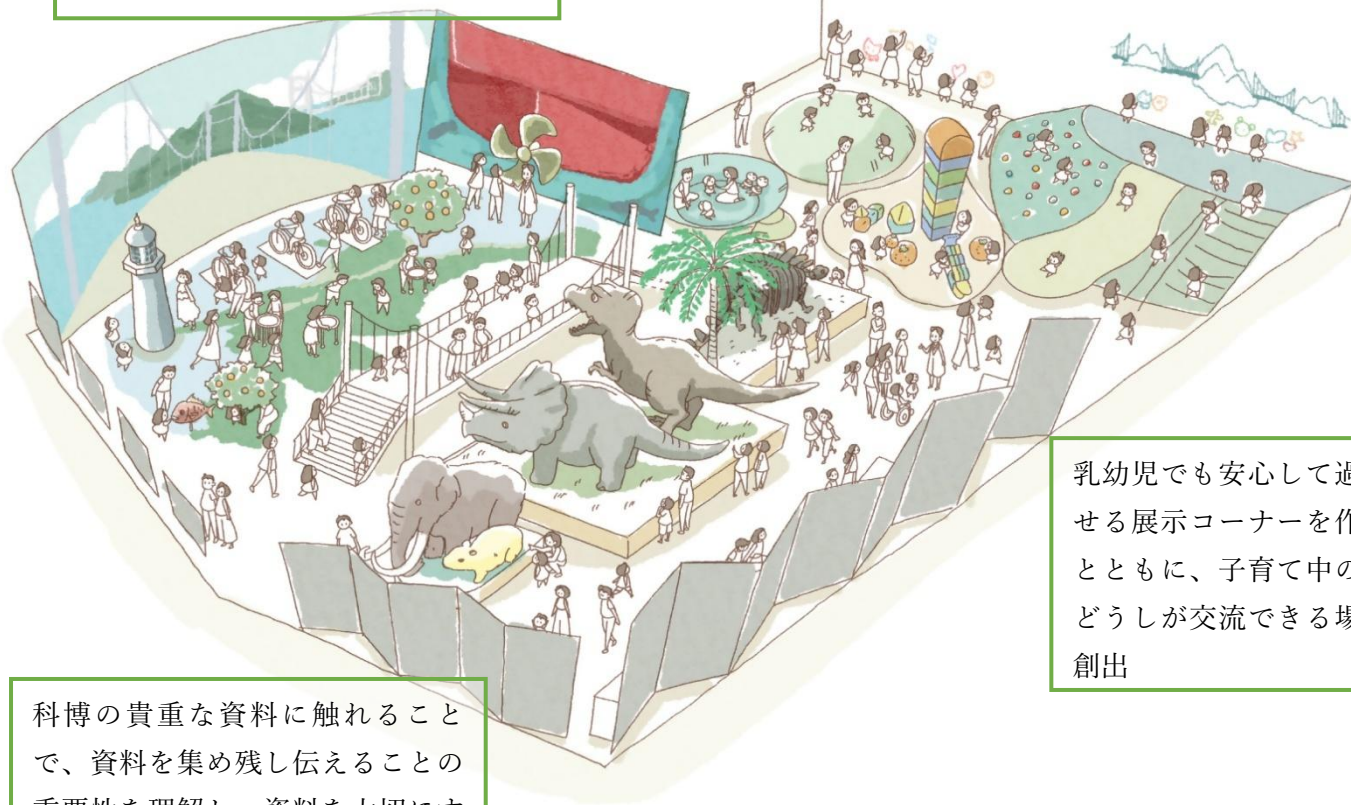
愛媛の自然の成り立ちと産業の創出から変遷までを融合させ地域の魅力を知る新しいストーリーを展示する。実物資料や迫力のある映像、直感的な体験、県内各地域の特徴的な情報が得られる演出を導入する。観光情報の収集と地域連携によるサービス充実を感じられる空間づくりに努める。

○科博の資料に直接触れる展示空間

展示室内に来館者が収蔵状態や資料整理等の作業を見学できるコレクションナリウムを併設する。新着資料の限定公開や期間ごとに資料を交換することで、資料保存の意義を理解し、資料の魅力に気づく機会を提供する。また、いつ来ても異なる資料を見られる期待を高めるとともに、資料整理人材育成の場も提供する。

自然と産業の資料が融合した展示で、愛媛の魅力を知り、愛媛ファンを増やす機会を創出

最新の科学技術の展示とデジタル技術による新しい演出の導入



乳幼児でも安心して過ごせる展示コーナーを作るとともに、子育て中の親どうしが交流できる場を創出

科博の貴重な資料に触れることで、資料を集め残し伝えることの重要性を理解し、資料を大切にすることを育む

理工系博物館における中四国最大の広さの企画展示室を作り、迫力ある大型巡回展を愛媛で見られる施設価値を伝え、山陰、九州、近畿からの誘客も促進し、交流人口増加に貢献する

学校の授業に即した体験展示を多数設置して学習価値の高い展示を実現

幼児から高齢者まで幅広い世代の様々な利用者が楽しめ、交流を深められる場を創出する

常設展示に資料収蔵機能追加
資料整理人材の育成

新しい産業資料展示による次世代人材育成の場を提供

○学校教科学習支援と進んだ学習内容の提供
学校で学ぶ範囲の理数科目の学習内容や体験展示を充実させ、学校利用の促進を目指すとともに、学校では学習しない自然・科学技術・産業分野の情報や体験も可能にし、幅広い学習興味に対応する。

○最新の科学・先端技術・産業情報への対応
更新が容易な展示スペースを設置し、最新の科学や技術などを展示することで、次々と新しい情報を提供する。また、県内産業の新製品や技術なども期間限定で展示・紹介し、地元理解と地域活性化につなげる。

○子育て世代へのサービス充実と高齢者のニーズへの対応
乳幼児には安全な遊び場であり、子育て世代へは平日などに安価でゆっくり過ごせる時間と空間を提供する。展示室だけでなく施設までの安全で疲れにくいアプローチを目指し、誰にでも優しい施設とする。回想法や健康寿命対策など高齢者ニーズに対応した事業や、個人や少人数でも来館しやすい空間も提供する。

○次世代人材育成への対応
企業情報も含めた展示を行い、青少年が県内産業の理解を深めるきっかけを提供する。また、次世代人材育成に活用できる職業訓練校などとの連携や起業意識を醸成できる展示を実施する。

(3) 収蔵庫拡充と新しい資料保存活動

方針

当館の30万点の資料の整理とDX推進を行う。資料の活用を通じ、利用者がその価値を理解し、後世に資料を残し伝えることの重要性を深く認識することを目指す。また、今後の収集活動を見据えた収蔵スペースの確保も重要となる。

整備項目

○新たな収蔵場所の確保

常設展示内に収蔵、展示、作業室を兼ね備えたコレクションナリウムを整備する。地域の公共施設の空きスペースなどを活用した資料収蔵設備の整備を進める。館内の資料一時保管箇所を整備し、収蔵環境の向上を図る。

○資料の魅力向上と人材育成

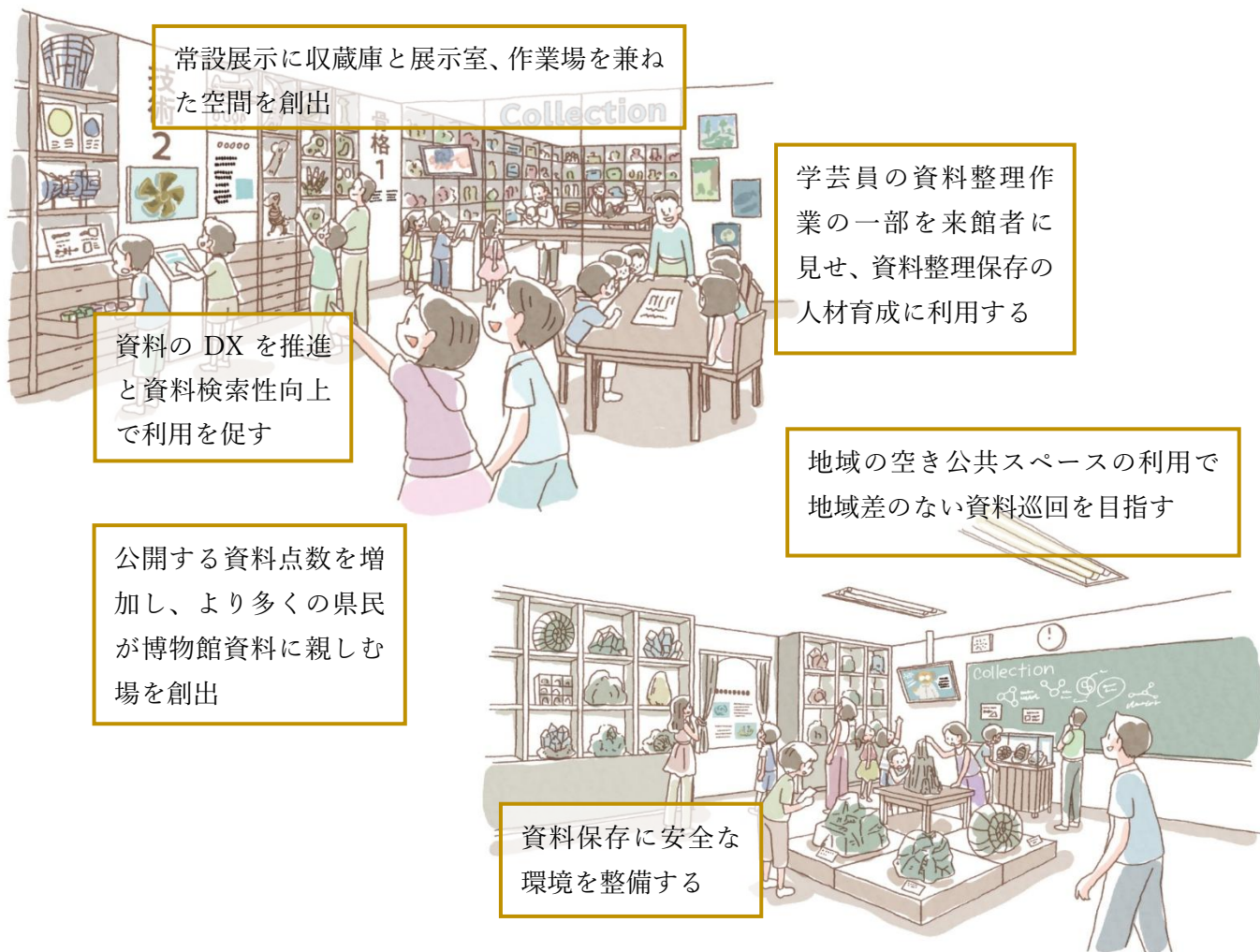
資料のデジタル化を進めるとともに資料整理の人材育成を目指す。また、資料利用の人材育成も行い、教育普及や展示等での新しい活用方法を模索する。

○資料利用の促進

常設展示コレクションナリウムには、収蔵品を展示物として見せるスペースを併設し、展示資料を定期的に更新することで、公開する資料の点数を増大させる。

サテライト資料収蔵設備には、その地域に関連する資料も収蔵し、地域住民に地域の文化を伝えるために、定期的に関連資料を公開する。

当館の30万点の資料は登録に加えDX化を推進し、デジタルデータを一般利用しやすい形で公開する。当館のデジタル資料が地域の観光資源として2次利用されるように働きかける。



(4) 施設整備と機能性向上・情報発信

方針

博物館の展示観覧や事業参加への利便性や快適性を改善し、来館者が再び当館を利用したいと思うよう、施設の魅力向上を図る。

整備項目

○安心・安全な空間の整備

来館者にとって安心・安全な環境を整える。通行帯を完全に分離し、ペイントするなど駐車場からの動線の安全性をより一層高める。

また、ロータリー付近の駐車場を拡充し、高齢者・子育て世代にも開放して利便性を高める。館内の空調、音響、照明等環境も整え、安全に館内で過ごせるように整備する。

○館内の利便性向上

館内のWi-Fi環境を整備して、来館者の多様なニーズに応える設備を充実させる。

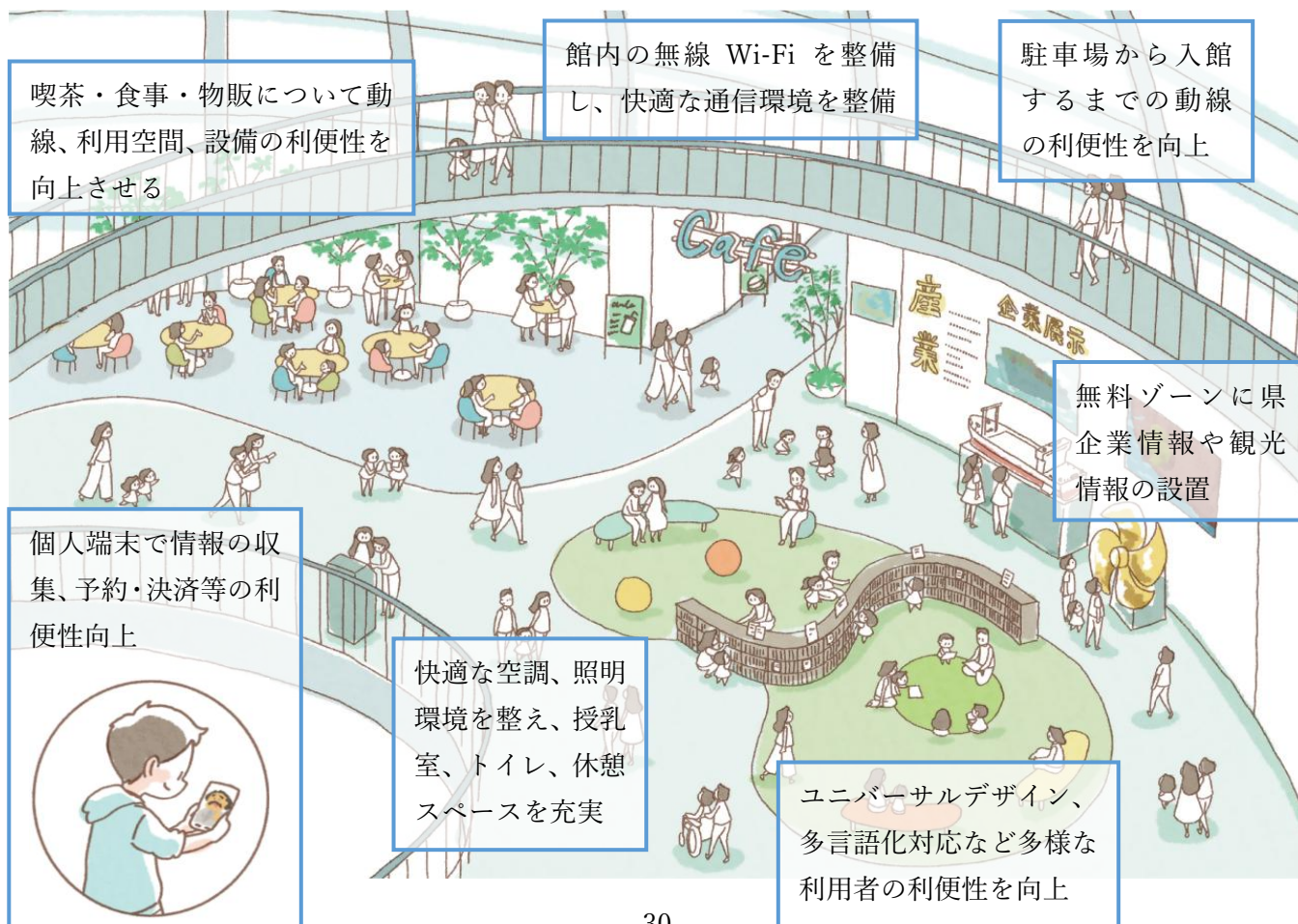
来館前から高い利便性を目指し、入館促進サービス（電子クーポン、事前予約、事前決済、整理券、電子決済手段等）を充実させる。

○魅力的なサービスで与える施設の付加価値

快適な喫茶や休憩箇所を整備し、休憩を目的とした空間づくりを目指す。物販やレストランの動線を整理し、分かりやすく入りやすいレストラン、商品を選びやすいショップとして再構成する。科博ならではの、または地域の店舗とコラボした商品やメニュー提供し、「ここだけ感」を出して来館動機につなげる。

○施設整備に合わせた情報発信の強化

SNS等のデジタル技術や通信環境を活用し、少子高齢化に対応したソフト事業、学生と企業のマッチング機会創出など人材育成支援、子育て世代や大人の多様な学習ニーズに応える新規プログラムや施設情報、地域連携や文化観光など各種取組みについて、きめ細かい情報発信を目指す。



4 戦略の基本プロセス・優先度

優先度 緊急性

フェーズ

1

当館の施設（ハード）の整備には多額の予算を要するため、一括実施は困難である。したがって、段階的に推し進める必要がある。同時に、長期間にわたる施設整備に対して県民が期待感を持続できるよう、施設機能の強化を実感し、理解や応援が途切れないような、効果的な事業の選定と順序付けを行いながら、ブランド力を高める長期的なプロモーションとともに実施することが必要である。

各段階の優先度は案件の緊急性に従い、次のとおり設定する。

フェーズ1 緊急の危機回避と機能更新

プラネタリウム・天文事業の充実

投影機器類は耐用年数を迎え、不具合の増加や代替部品の枯渇が深刻な問題となっている。安定的かつ高品質な投影が保証できない状況であり、館のシンボル機能を失わないため、最優先で対応する。防衛的投資を基盤としつつ、一部機能の更新・強化を含めて進め、機能停止リスクの回避および来館者満足度の維持向上を図る。

（効果）機能更新により、先進的な番組制作および事業展開が可能となるとともに、観覧環境も向上が図られる。これらのことにより、現在より施設稼働率が向上し、利用者の増加と高い評価を受けることが期待できる。

フェーズ

2

フェーズ2 早期の集客力向上

展示室の更新1（大型企画展示室の新設・産業資料の移設）

常設展示の一部を理工系博物館における中四国最大の企画展示室に改修することで、費用を抑制しつつ産業展示の更新が可能となる。産業館エリアの改修は開館以来大規模改修が行われていないため、展示内容の刷新と空間活用の向上を同時に実現する。

（効果）大型企画展示室の新設により、国内最大級の巡回展示の誘致が可能となる。これにより大型企画展示開催の空白地帯であった中四国一円からの集客が見込まれ、当館で来館比率の低い大人層への訴求が図られる。その結果、交流人口増大と新規来館層の獲得が期待できる。

フェーズ

3

フェーズ3 中核機能の本格的再構築

展示室の更新2（常設展示の大規模更新）

収蔵庫拡充と新しい資料保存活動1（常設展示内収蔵）

常設展示の大規模更新は、当館の魅力向上戦略の中核であり、県民や県内企業との連携を深め、十分な時間をかけて慎重に構想・計画を進める必要がある。また、常設展示内での収蔵庫拡充と新たな資料保存活動を通じて、保存環境の整備や資料の適正管理を強化する。これらは予算や工期も大規模となるため、先行する大型企画展示室の新設・産業資料移設により県民の理解と期待を高めてから着手する。

（効果）自然と産業を融合させた新しい展示ストーリーにより、あらゆる世代で来館から遠ざかっていた層が改めて当館を訪れることになり、これにより入館者の増加が得られるとともに、郷土愛の育成や地元企業の求心力向上などが期待できる。

施設整備と機能性向上・情報発信

現在、大規模修繕と高寿命化工事が開始されており、館内外の動線の安全性や快適性は今後大きく改善される見込みである。

レストランやショップ等の設備改修、通信関連の更新、並びに電子サービス導入は緊急性が低いため、常設展示更新の実現後、新しい入館者層を獲得した段階で仕様を確定し、段階的に実施していく。

（効果）新しいサービスは来館障壁を下げるだけでなく、施設に新しい価値を創出するため、来館意欲の継続や新規来館層の獲得が期待できる。

フェーズ

4

フェーズ4 地域連携の深化と広域展開

収蔵庫拡充と新しい資料保存活動2（地域へのサテライト収蔵）

館内の収蔵施設の整備完了後、必要な外部収蔵量を見積もる必要があり、最も時間をかけて計画すべき案件である。外部との調整も重要であるため、長期的な視点で各所と協議を重ねながら進める。これにより、館外収蔵やサテライト収蔵の整備を推進し、地域資源を活用し多様な主体との連携強化を図る。地域社会との共創を促進し、当館の広域的な役割と魅力向上に取り組む。

（効果）当館資料を県内で地域差なく巡回させることで、県の自然・科学技術・産業の文化資産の重要性を伝えられる。併せて地域間の格差是正や文化資源の公平なアクセスを促進し、地域社会との連携や共創を通じた地域活性化に資することが期待できる。

5 戦略の進展に応じたソフト展開

展示室やプラネタリウムの更新により、新たな事業展開が可能となる。子育て支援や高齢者への興味喚起、大人のための来館など、多様な来館者層の増加を図るとともに、生徒・学生と地元企業とのマッチング事業など施設の機能拡充に加え、ソフト事業の展開を整えることで、恒常的な当館の利用者層の形成が期待される。また、観光情報や企業情報の発信により県外来館者に愛媛ファンを増やす機会を創出するなど、戦略の進展に応じたソフト事業の展開により、ビジョン実現に向けた活動を充実させる。

なお、施設の整備に先立ち、実施可能なソフト事業についてはプログラムの検討や試行実施等を行い、整備を見据えた知見の蓄積を図る。

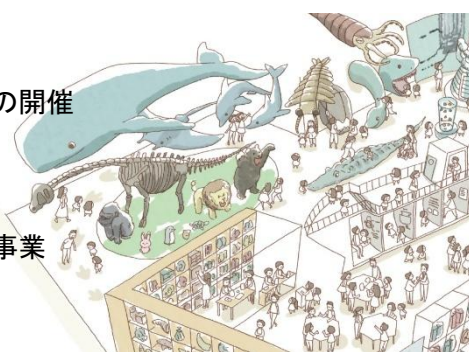
○プラネタリウム・天文事業の充実

- ・世界の施設とリアルタイムで結んだ天文イベントの実施
- ・天文台とプラネタリウムを中継で結ぶ取組
- ・プラネタリウムで講演会や演奏会の開催
- ・県内観光地をプラネタリウムで紹介する企画
- ・ドームを利用した深没入映像で生体内部などの探検映像番組の投影
- ・ユニークメニュー等を活用した大人限定夜間イベント
など



○展示室の更新

- ・理工系博物館における中四国最大面積による特別展の開催
- ・オンライン等を活用した常設展示の学校授業利用
- ・展示や資料を通じた学校の部活動への支援
- ・企業提供の装置類を使用した実験ショーの実施
- ・企業展示で産業説明会・企業と学生とのマッチング事業
- ・子育てエリアでパパママ交流会
- ・大人が楽しい展示解説ツアー
など



○収蔵庫拡充と新しい資料保存活動

- ・科博資料探訪による貴重資料との出会い
- ・化石クリーニングの体験
- ・地域の自然環境・産業を資料で訪ねる活動
- ・デジタルデータによるマニア的楽しみ方の提供
- ・市民参加型の資料収集及び調査研究
など



○施設整備と利便性向上・情報発信

- ・子育て世代の科博の楽しみ方イベントの開催
- ・産業情報・観光情報利用体験会
- ・世代を超えた交流イベントの実施
- ・地域関連施設とのコラボ企画
- ・東予の観光モデルコースの紹介
- ・近畿等遠方からの来館者促進に向けた情報発信
など



6 戦略の進展に応じた数値目標

(1) 将来の入館者数の推定と目標

当館の総入館者数、年齢・地域別割合および愛媛県の人口推移の推計値に基づき、魅力向上戦略に掲げる大型事業の実施により、期待される将来の入館者数の目標値を設定する。

地域別では、入館者数の約 66.7%が県内、約 33.3%が県外来館者であり、その比率は年によってほぼ変動がない。年齢別では、小学生とその家族が中心であり、県内からは 14 歳までの年少人口の約 40%、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の約 10%、65 歳以上の高齢者人口の約 1.4%に相当する人数で構成されており、この比率も年ごとにほぼ変化しない。

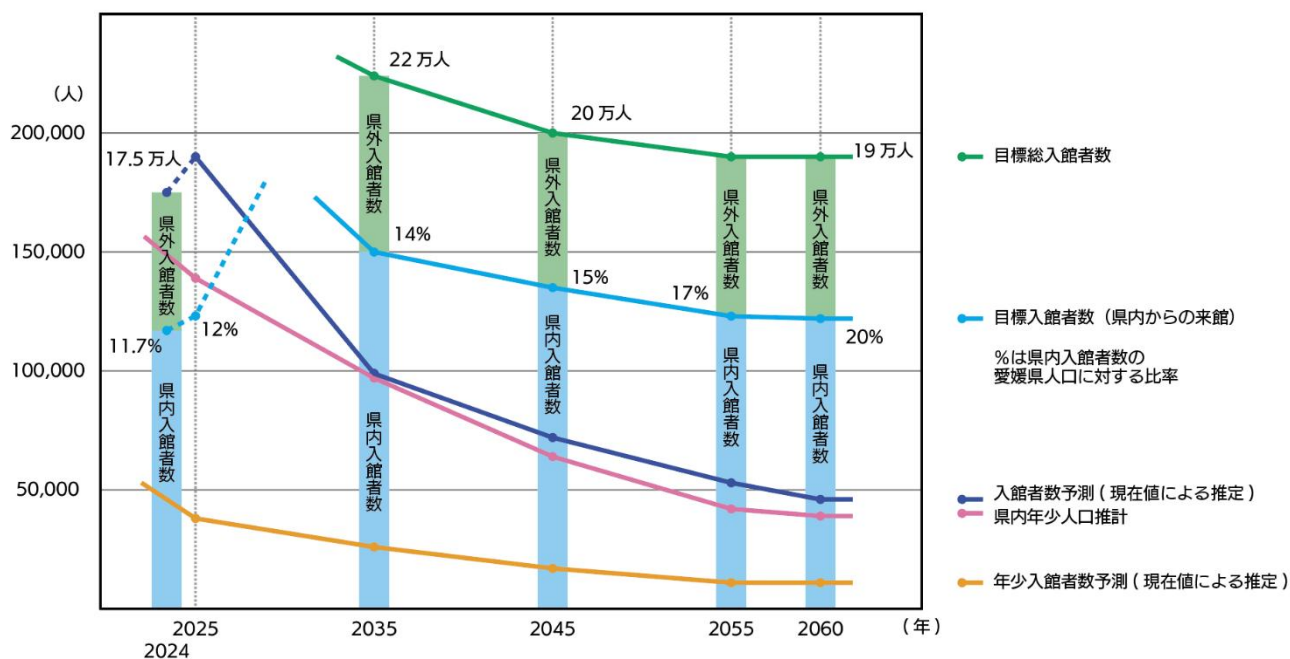
これらの前提のもと、県の人口減少、特に出生数の減少に比例して、長期的に当館の入館者数は減少傾向をたどると予測する。年齢・地域別入館者割合が将来的に変化しないと仮定すると、基準年（令和 6 年度）から 10 年後の入館者数は約 10 万人まで減少すると推計する。

これ以降の推計では、県内の年少人口の推計値が入館者数の推計値とほぼ一致するため、小学生とその家族が中心の来館者構成が続く場合、来館者数が著しく減少し、文化資産を後世に残す施設の目的を果たすのが困難になると推測される。

本戦略では、これまで来館機会が少なかった乳幼児の子育て世代、大人だけのグループ、高齢者及び高校生・大学生の来館を促進し、幅広い世代で入館者数の増加を図る。具体的には、現在の総入館者数は県人口の約 11.7%に相当するが、これを段階的に 20%まで引き上げることに加え、県外からの来館も促進することで、将来の急速な人口減少下においても年間約 19 万人の入館者を確保できると試算する。

これにより、県民が科学に親しみ、ふるさとを愛し、産業の発展に寄与し、愛媛県の未来を創造する機運を高めるとともに、県外との交流人口増加を図り、県内の人口減少抑制にも貢献すると考える。

目標総入館者数	目標期間	令和 6 年度実績	倍率
190,000 人を維持	30 年間(2055 年)頃まで	174,979 人	1.1 倍



科博の現在値による入館者数推移予測と魅力向上戦略を基に推計した目標総入館者数

(2) KPIの検討について

今後、魅力化向上戦略の事業実施段階の際には次のような観点でKPIを設定することも検討する。

○「量」から「質」への転換 リピーター率・滞在時間

少子化で人口が減少する中、単なる「入館者数」追求は限界がある。今後は、一人の来館者が人生のどのような時期にどのような頻度で来館したかを調査し、当館の貢献度や満足度を定量化すれば、施設の質を表すことができる。また、来館時にどれだけ深く学んだかの指標となる「平均滞在時間」や「展示物の滞留時間」、家族やグループの対話から施設の満足度を測る「会話音声による分析」などを重視した調査も重要である。その他、展示や事業の要望数、クレームや要望の対応への印象度、他館との事業満足度の比較など、当館を質的に評価する指標を多角的に検討する。

○地域経済への波及（周遊率・県外客数）

魅力向上戦略の柱である地域活性化については、アンケートで課題となった「周辺施設への周遊率」や大型展示会による「県外（広域）からの集客数」を観光・経済へ貢献度として特定していくべきである。

また、来館者の移動距離と支出金額が事業の規模や範囲にどのように影響したか等、地域連携の効果範囲と当館の貢献度を測定する指標も重要になる。

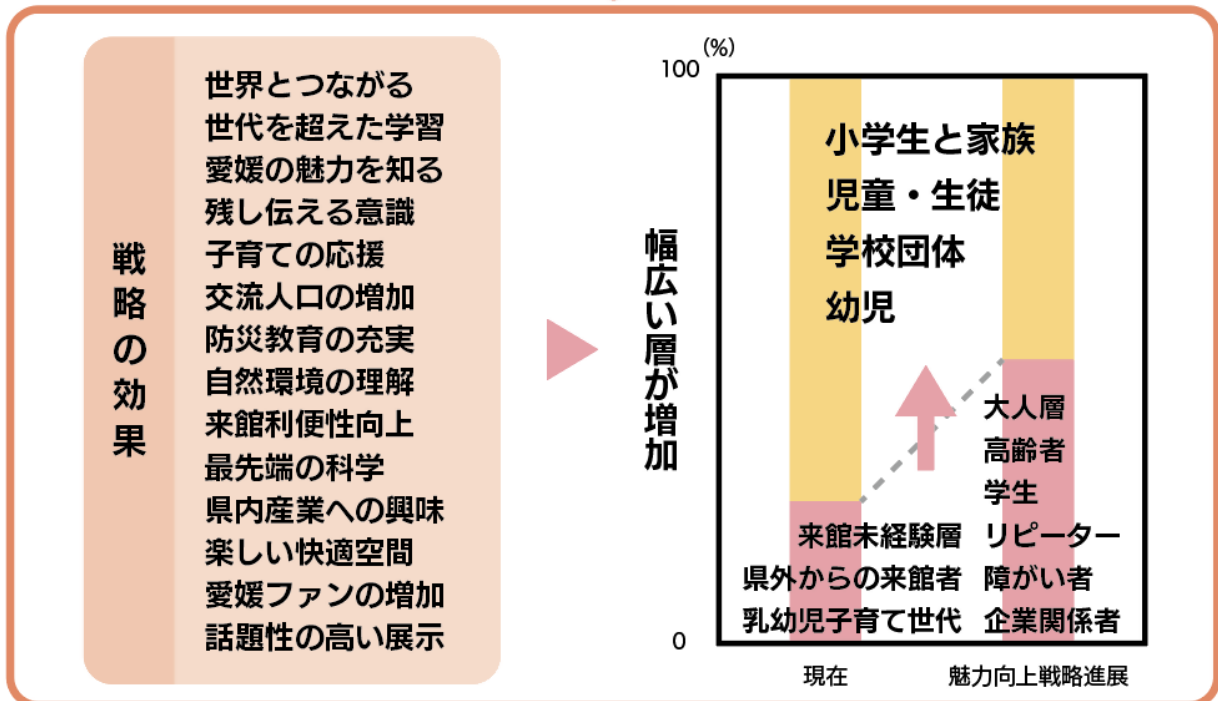
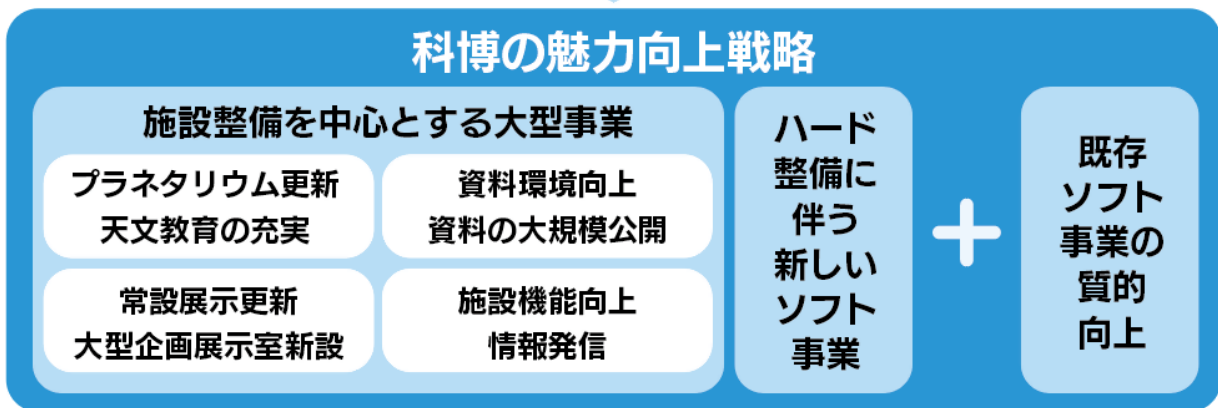
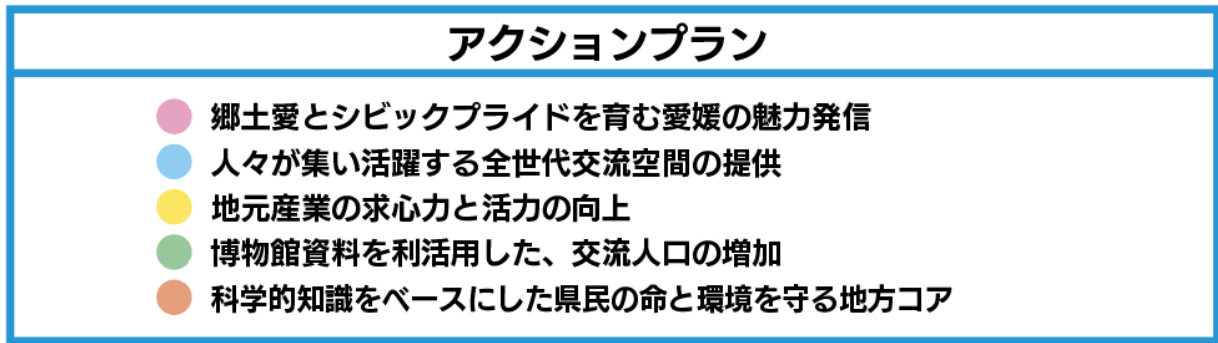
○次世代育成・満足度（教育効果）

青少年の影響については、学校団体の利用満足度はもちろん「ワークショップの参加者数」や、展示を通じた「科学への関心の変化（アンケート）」など、教育的な価値を定性・定量の両面でとらえる指標を検討すべきである。事業参加者の要求を正確に分析し、効果の高い事業にするための指標を追求するための調査も必要である。加えて、週末科学クラブ指導回数（依頼件数）なども把握していく。

(3) フェーズ連動KPIについて

事業が次のフェーズに移行するためには、予算や運営体制の準備に加え、施設が目指す姿に到達しているかを評価することが重要である。戦略の進展を把握するKPIを導入し、次のフェーズへ移行準備の状態を定量的に示すことで、進捗把握はもとより、県民の事業への理解促進やプロモーションにもつながる。例えばフェーズ2から3への移行は、大規模巡回展の認知度や県内外の交流人口が一定水準に達すること、また、フェーズ3から4への移行は、地域連携の活動や市民活動の量的指標、当館の地域連携のためのコンテンツ数等を基準とすることが考えられる。

7 科博の理念と魅力向上戦略のイメージ



科博の目指す姿（ビジョン）の実現

付録 愛媛県総合科学博物館 魅力向上戦略検討会 構成員名簿

区分	氏名	所属・役職
学識経験者	堀 利栄	愛媛大学大学院理工学研究科教授
博物館関係者（科学関係）	吉岡 克己	大阪市立科学館長
博物館関係者（自然関係）	茨木 靖	徳島県立博物館自然担当課長
観光・地域連携関係	青野 力	青野海運株式会社代表取締役社長 新居浜市 ESD 推進事業協議員
利用者（三世代利用）	坂井喜代己	総合科学博物館友の会科学クラブ部長
利用者（若年・女性）	渡邊 真菜	新居浜工業高等専門学校生（5年）
行政	吉岡奈津子	新居浜市企画部シティプロモーション推進課長
行政	村上 彰彦	西条市教育委員会学校教育課長

付録 愛媛県総合科学博物館魅力向上戦略策定検討会開催要綱

(開催)

第1条 愛媛県総合科学博物館の魅力向上について、学識経験者等の意見を聴取するため、愛媛県総合科学博物館魅力向上戦略策定検討会（以下：検討会）を開催する。

(検討事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 魅力向上戦略に関すること。
- (2) その他必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 検討会は、別表に掲げる構成員をもって構成する。

(会長)

第4条 検討会に会長を置く。

- 2 会長は、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する構成員が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会の会議は、会長が事務局を通して招集する。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、構成員以外のものに会議への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討会の庶務は、まなび推進課において処理する。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、会長が検討会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和7年6月27日から施行する。

付録 愛媛県総合科学博物館魅力向上戦略検討会 スケジュール

時期	内容
6月17日(火)～24日(月)	科博協議会書面開催 魅力向上戦略策定検討会意見書の提出
8月4日(月)	第1回魅力向上戦略策定検討会 検討会の目的説明・現状の説明 構成員会長選出 館内視察・意見交換
8月22日(金)～31日(日)	館内アンケート、インタビュー等の実施(事務局) 検討会構成員 意見書提出
10月8日(水)～ 10月9日(木)	検討会構成員による先進地視察 大阪市立科学館、徳島県立博物館 (事務局のみ：バンドー神戸市青少年科学館)
10月29日(水)	愛媛県総合科学博物館協議会への進捗説明(事務局)
10月末	検討会構成員先進地視察結果 意見書提出
11月	魅力向上戦略骨子案の作成(事務局)
12月	骨子(案)検討会構成員への送付
12月19日(金)	第2回魅力向上戦略策定検討会 事務局骨子案に対する意見交換
1月	魅力向上戦略素案の策定(事務局)
2月19日(木)	第3回魅力向上戦略策定検討会 事務局案への意見、修正
3月以降	第4回魅力向上戦略策定検討会(書面開催) 魅力向上戦略案の策定(事務局) 愛媛県総合科学博物館協議会による魅力向上戦略案の確認と検討会構成員への報告 魅力向上戦略の完成と公表(事務局)